



平成21年度

インターンシップ 感想文集・実施報告書

社団法人 愛知県建設業協会

はじめに

愛知県建設業協会では、建設産業での若年者層の人材確保・育成の推進を図ることを目的として、建設系工業高校に在学する生徒を対象に在学中の就業意識を高めるために、また、将来の少子高齢化の進展に伴う建設従事者の雇用改善並びに建設産業の発展を維持するためにも、優秀な若年者を確保・育成することが最も重要な課題と考えております。

混迷と激動の厳しい産業経営環境下にあります。行政・教育・建設産業界が一体となって、建設産業での若年者の人材確保・育成の理解を深めるため、また、高校生が直接建設現場において就業体験を行い、実務的な知識や技術・技能に触れることにより、学習意欲を喚起し、主体的な職業選択能力や高い職業意識を育成できるインターンシップを、本年も、会員企業はじめ29社のご理解とご協力により、県下6校、64名の建設系工業高校2年生に実施しました。

つきましては、このインターンシップに参加した生徒達が、建設産業に対するイメージや建設産業に対する認識を新たにし、さらなる躍進に期待を込めて、感想文を寄せてくれました。

私達は、寄せられた感想文にあるように貴重な体験を生かし、土木や建築を志向する若者達が、社会に貢献する基幹産業の一員に育つ事を心から願うものであります。

また、我々建設産業も彼等の夢を壊すことなく、未来への希望を信じて活躍出来る土壌作りに努めていく所存です。

どうか今後とも、関係各位にはご協力を賜り、建設産業での若年者の人材確保・育成の促進発展を期したいと考えております。

何とぞよろしくお願い申し上げます。

平成22年1月

社団法人 愛知県建設業協会

愛知県立愛知工業高等学校

- 01 遠矢建築
- 03 大有建設 株式会社
- 05 株式会社 友建
- 07 東邦ガステクノ 株式会社

愛知県立一宮工業高等学校

- 09 株式会社 ケー・エイチ・ケー
- 11 株式会社 丹羽工務店
- 13 株式会社 カネショウ工務店
- 15 大興建設 株式会社
- 17 株式会社 加藤建設
- 19 株式会社 イチテック
- 21 株式会社 渡邊組

愛知県立岡崎工業高等学校

- 23 浅井土木建設 株式会社
- 25 白濱建設 株式会社

愛知県立半田工業高等学校

- 27 株式会社 七番組
- 31 株式会社 大進
- 33 有限会社 青和業務店
- 35 株式会社 清久建設
- 37 株式会社 沢田工務店
- 39 有限会社 興和建築設計事務所
- 41 有限会社 大秀組

愛知県立豊橋工業高等学校

- 43 藤城建設 株式会社
- 45 株式会社 花田工務店
- 47 株式会社 豊田組
- 49 青山建設 株式会社

愛知県立新城高等学校

- 51 株式会社 田村組
- 53 株式会社 ごんだ
- 55 松井建拓 株式会社
- 57 株式会社 庄田組
- 59 小笠原建設 株式会社

平成21年度インターンシップ実施について

この度、平成21年度インターンシップ実施に参加させて頂き有難うございました。

自分の高校時代の担任蟹江先生(現建設科科长蟹江先生)からこの話を頂き喜んで引き受けさせて頂きました。自分達卒業生・少しばかりの社会の先輩として大工仕事を通じて何か伝えていけたら良いなと思ってました。今回8/24(月)～8/26(水)の3日間武豊町の改修現場で実施しました。今回坂井君・末松君2人との出会いがありました。

約束の朝時間前から現場近くの駅で待っていたみたいで関心しました。

挨拶・礼儀の良さに関心しました。今時の生徒かなあ?と思ってました。

生徒も作業服に着替えて作業開始しました。やはり最初は初めてな事ばかりで戸惑っていましたが何でも聞いてきて凄く気持ち良かったです。

2人にはとにかくケガするなよと安全確認させてから作業を体験させていました。

何事にも安全第一だぞと2人にも伝えて作業していました。

作業体験内容ですが、2人に壁材貼りをさせました。当初は壁材(プラスターボード)の重さに驚いていました。壁材の材質・仕様などを説明しながら作業させました。

2人は真剣に壁材貼りの作業に取り組んでいました。壁材を固定するビスを打つのに下地の位置を記すのに墨つぼを使いました。2人は初めて使ったみたいで驚いていました。

長い距離を線引くのに墨の付いた糸を張り指で糸を弾くといった昔からの技なので関心していました。楽しいといって一生懸命真直ぐ引けるように頑張っていました。

昼休みに入り一緒に弁当を食べ母校の話をしていました。自分の18歳下も歳のはなれた生徒と母校の先生の話で盛り上がるとは思いませんでした。

高校時代の担任の蟹江先生が科長になって今も蟹江先生とのつながりがあるのも良い事だなあと思いました。自分は高校生時代から大工になりたいと思い大工になりました。弟子入りして独立各工務店を渡り色々経験してきました。

今このような最悪な景気に直面して高校生は大変だと思います。自分の時も同じ様な状態でした。でも大工職人になり凄いな家造っていくんだと思う気持ちが大切だと思います。今回のインターンシップ研修を通じ今の若者もしっかりとした気持ちを持っているんだと関心しました。卒業生OBとして大工工事を通じ社会での挨拶・礼儀・感謝をいつでも忘れるなよと教えたかなあと思いました。

今後もまた機会があればぜひ参加・協力させて頂きます。研修中担任の古沢先生も現場に来ていただき2人も喜んでいました。先生達も大変だと思いますが、生徒たちを見て話して気にしてやって下さい。必ず自分自身しっかりとした考えを持つ人間になると思います。この度は有難うございました。



インターンシップに参加して

建設科 2年 坂井 英一

この度は、お忙しい中このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。この3日間は、僕にとって大変有意義な時間となりました。ミーティングの最中や休憩中の親方との会話は、とても勉強になり、感動しました。

このインターンシップでは、学校では体験できないことを教えていただき、大工という仕事に対して、今まで以上に興味を持つことができました。

1日目は、初日ということもあり、初めは道具運びや掃除だけをやらされるのかと思っていたのですが、最初から石膏ボード貼りをやらせていただけたのでとても驚きました。

現場の仕事では、掃除や整理整頓は基本中の基本であるのにも関わらず、石膏ボード貼りをやらせていただけてすごく嬉しかったです。石膏ボード貼りではコンセントとパイプの位置をとるのにとても苦勞をしました。コンセントやパイプが通る位置にのこぎりやカッターナイフで石膏ボードに穴を開けるのは一見すると、単純な作業にも見えますが、予想以上に難しい作業でした。また、石膏ボードも想像していた重さよりずいぶん重かったのでびっくりしました。2日目からは、多少作業に慣れてきたのか比較的スムーズにいくようになりそのままずっと続けたいと思いました。

インパクトでビスを打つ作業も単純な作業に見えるのですが、真っ直ぐビスを打つのがとても難しく、苦勞しましたが、作業をしているうちにいつの間にか夢中になっていて時間がすぎるのがとても早かったです。

今回のインターンシップは僕にとって非常に良い経験となりました。これからは将来、立派な大工になれるよう、残りの学校生活、悔いが残らないように頑張って勉強します。

最後に、至らない点ばかりでいろいろと迷惑をおかけすることが多かったと思いますが、丁寧にご指導いただき、とても充実した3日間になりました。本当にありがとうございました。



インターンシップを終えて

建設科 2年 末松 大樹

今回、お忙しい中このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

この3日間は、学校では体験できないことを教えていただき、また、体験させていただきとても勉強になりました。そして、ますます大工のことに興味を持つことができ、もっと勉強して知りたいと思えるようになりました。

1日目はしばらく掃除や材料を運んだりするのかと思っていましたが、初めから、石膏ボード貼りをさせてもらうことができとてもよかったです。石膏ボード貼りは、仕事の中で簡単な方だと思いますが、やっぱり初めは難しく、コンセントやパイプがあって、それを通すための穴をのこぎりやカッターナイフを使って開けたり、石膏ボードにインパクトを使ってビスを打ち込むのにも、最初は全然ビスが入っていかなくてとても難しかったです。石膏ボードの中心などを墨付けするときには墨つぼという道具があって、とても便利でびっくりしました。それから、釘を打つときに木が割れにくいようにするための裏技とかもあってすごいなと思いました。

2日目は、インパクトでビスを打ち込むのにもだいぶ慣れて、作業もスムーズに進めるようになりました。この日からは、ビスを打ち込む機械も使わせてもらえるようになり、でもやっぱり使うのは難しくとても苦戦しました。

3日目は、ビスを打ち込む機械もだいぶ使えるようになり、もっと作業が早く進むようになりました。でも一番壁際の石膏ボード貼りはとても苦戦しました。それから、昼食やミーティング、休憩中のお話はとても勉強になり感動しました。この3日間の体験は絶対に忘れずに、これからは生かしていきたいと思います。

本当にこの3日間お世話になり、ありがとうございました。



インターンシップを終えて

7月22日・23日24日の3日間、愛知工業高校土木コース二年生の安藤君・神原君とインターンシップによる現場実習を行った。

今年は例年と違い長梅雨のため、見学予定の変更を余儀なくされ、施工状況を見られない現場もあり残念に思っています。

現場での体験を終え、今後の就職活動の参考になればと思います。最後に建設業は、3Kと言われ敬遠されがちですが、造ることの楽しみ・完成したときの達成感があり、今後の進路の参考にしてもらえればと思います。

本店工事部 機材課 北川 浩幸



インターンシップについて

建設科 2年 安藤 拓人

7月22日から24日までの3日間、大有建設株式会社という会社にインターンシップに行ってきました。本社の場所は金山ですが、今回のインターンシップでは3日間とも本社ではなく色々な現場へ行ってきました。

1日目は、北川さんという方に現場への案内や説明をしてもらいました。最初の予定では、かけがわに行くはずでしたが、天候の関係で変更になり、猿投の現場へ行きました。2日目は、深津さんと、弥富やら枇杷島の道路工事の現場で実際の道路での作業を見て、説明してもらいました。実際の道路工事の現場は、初めての事ばかりで、勉強になりました。3日目は、初日に行けなかった掛川に行きました。岐阜県まで車での長旅でした。この現場では、全長が20mはあるほどの施工機械を見ました。移動が大変でしたが、現場の色々な事を知ることができました。

普段の生活や学校の中では見ることの出来ないものや行くことの出来ない場所に行けて、自分の将来を考える上での参考にしたいと思います。大有建設株式会社の皆さんありがとうございました。



インターンシップを終えて

建設科 2年 神原 幹

7月22日から24日までの3日間、大有建設株式会社へインターンシップに行ってきました。中学生の時に職業体験に行った経験があるのですが、今回は自分が学んでいる土木関係の会社という事で、とても楽しみにしていました。

3日間で色々な現場を見せていただき、丁寧に説明もしていただいたので大変勉強になりました。その中でも印象に残ったのが、試験施工の現場とアスファルト舗装の現場でした。試験施工の現場では、2種類の機械を使ってどちらの機械のほうが効率良く施工が出来るかを試験していました。単純に物を作るだけでなく、より良い方法や機械の選定など、常にいろいろな事を考えながら工事を行っていることが良く分かりました。道路のアスファルト施工の現場では、真夏に100以上の熱いアスファルトを敷きつめて整備しているところを見て、ものすごく暑いのに現場では当たり前な事も知れませんが作業服をきちんと着てヘルメットを着用しないといけないうので大変な仕事だと思いました。

普段の生活や学校の中では見ることの出来ないものや行くことの出来ない場所に行けて、とても充実したインターンシップでした。大有建設株式会社の皆さんありがとうございました。



インターンシップを受け入れて

残暑の厳しかった中、3日間お疲れ様でした。

大工仕事の体験という事で今回受け入れをさせて頂きましたが、非常に熱心に取り組んで頂き、この業界に興味を持って頂けている事が感じられ、大変嬉しく思いました。

この不景気と言われる中、建設業は非常に厳しい時代となっております。我々も「技術を提供する会社」として、職人一同、仕組み作りから改革していかなければならないと思ひ、日々取り組んでおります。

特に、職人の仕事環境は年々厳しくなっており、大工仕事も分業化が進む事によって、コストダウンが求められ、職人個人において若手を育成していく事が困難な時代になってしまいました。

しかしながら、職人の高齢化も進み、数年の内に腕の良い技術者が激減すると感じ、若手の育成は急務と考えております。

その中で、若い芽が育つ事は非常に重要な事だと思います。インターンシップによって、この業界に対する興味が膨らみ、進学するにも、就職するにも意義を持つ、価値ある生き方をして頂き、良き技術者になって頂きたいと思ひます。

我々友建一同も、まだまだこれからの会社として頑張っていこうと思っております。皆さんが技術者となり、共に建設の仕事ができる日が来る事を楽しみにしております。



インターンシップに参加して

建設科 2年 花井 駿基

今回、お忙しい中インターンシップをさせて頂き、大変お世話になりました。

3日間と言う短い時間でしたが、学校では学ぶことが出来ない貴重な体験をさせて頂くことができ、仕事をする事の難しさ、厳しさ、楽しさを知ることができました。

1日目には代表の山田さんに作業の危険性や安全について詳しく教えていただき、自分の持っていた現場のイメージとは違うことを知りました。また、アパートのリフォームのお手伝いをさせて頂きました。家具の設置やドアの取り付けなど、身近な物の設置などをして、今まで何も意識しなくて使っていた家具などの仕組みを知ることができました。

2日目は建設中の現場で仕事をさせて頂きました。

まず、作業の前にKY(危険予知)活動をして作業の安全に対する気持ちが強まりました。

その後、石膏ボードを釘撃ち銃で打ち付ける作業させて頂きました。初めて使う釘撃ち銃は見たことはあったのですが、触ったことはなく最初、釘を撃ったとき、衝撃が強く、ビックリしました。でも慣れてくると楽しくなってきたり時間を忘れて作業をしていました。次に、床のフローリング張りのお手伝いをさせて頂きました。初めはフローリングは一枚の大きい板を貼り付けると思っていたんですが、実際は90cm程の長さのフローリングを一枚一枚貼っていくというとても手間のかかる作業ということを知りました。僕なら、すぐ集中力が切れてしまいそうな作業でしたが、現場の人達はすいすいと作業を進めていく姿を見て感動しました。

3日目も2日目と同じ現場でお手伝いをさせて頂きました。

昨日経験していたので、多少は慣れた手つきで作業をすることができました。作業をしている最中、担任の先生が現場に来てくれました。山田さんと先生と僕たち生徒たちで集まっている時に、山田さんがこれからの建築業界について、進路についてなどのお話をさせていただいて、自分の進路に対する気持ちがとても強まりました。この3日間を通して、働くことに対しての気持ちや建築業のイメージが変わりました。この経験を活かし将来に繋げていきたいと思ひます。今回はこのような貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。



インターンシップをふりかえって

建設科 2年 宮田 瞬

僕は8月24日から26日までの3日間、インターンシップに行きました。会社の方々にはとてもお世話になり、何もかもが初めてのことであったので、とても緊張しました。最初に建築の現場で働いている人たちはどのように働いているのか、また将来自分はそのように働けるのか、とても気になりました。自分はその答えを見つけるのを、このインターンシップの目標にしようと思いました。



1日目は、まず建築の現場には常に危険が伴うため会社の事務所で安全講習があり、現場で起こりうるいろいろな危険とその対処方法を考え、今から将来までとても役に立つことを教えていただきました。その後、会社の人たちが働いている現場に行き、会社のみなさんにあいさつをし、やっと待ちに待った時間がきました。この日は石膏ボードを打つための釘打ち銃を扱っていただき、その危険性と打ち方を丁寧に教えてもらいながら、黙々と手伝っていきました。職人さんたちの働く姿を見ていると、やるときは真剣でいながらも、時折気さくな開放感もありました。自分の思っていた職人さんの姿はもう少し厳しい姿を想像していたので、とても安心して仕事を手伝うことができました。

2日目と3日目は、床のフローリング貼りとそのフローリングが傷つかないようにするための養生シート貼りを手伝いました。地味な作業でしたが、とても大変で疲れました。最後の日にクラスの担任の先生が来て、いろいろなことを話しました。

この3日間はアルバイトなどをしたことがない僕にとって、「働く」ということを知るには絶好の機会でした。このインターンシップでは仕事の大変さや楽しさなどを実感しました。それと同時に、仕事が予定のところまで終われると達成感と同時に充実感がありました。また、このような機会があればもう一度やってみたいと思います。ありがとうございました。

インターンシップで学んだこと

建設科 2年 森川 英典

今回、大変お忙しい中インターンシップをさせて頂き、ありがとうございました。

現場で体験してみないと分からない、仕事をする難しさや、辛さ、やりがいなどを知ることが出来ました。また、学校の実習などでは学ぶことの出来ない、貴重な体験をすることが出来ました。

一日目、7:50に現場の近くの駅に集合のはずでしたが、手違いにより7:30集合になっていて、知らされていない僕はまるで遅刻したかようになってしまいました(笑) 午前中は会社の事務所で代表の山田さんに現場についての危険性、安全の確保の方法について学びました。午後からは、現場に行っているんなお手伝いをさせて頂きました。現場には注意しないと分からない危険がたくさんありました。そして、午前中のKY活動の重要性を知りました。



二日目は、一日目と同じ場所でお手伝いをさせて頂きました。まず、石膏ボードの貼り付け作業をさせて頂きました。思っていたよりも一枚が重く、なかなか上がりませんでした。そんなボードを片手で持ち上げて、素早く作業をしている方々はすごいと思いました。次に、床に傷が付くのを防ぐ為の養生シートを貼らせて頂きました。見た目以上に難しくかなり時間がかかってしまいました。その後は、フローリングの板を貼るお手伝いをさせて頂きました。

三日目は、会社の人に乗せていただき、現場に行き、リフォームのお手伝いをさせて頂きました。一日目、二日目とは、全く違う作業なのでとても楽しみでした。まず現場に着いたら、簡単な仕事をし、その現場に残っている長物や石膏ボードなどを回収しました。次の現場ではドアの取り付け、クローゼットの取り付けなどをやらせて頂きました。会社の人々がやっているのを見て、実際にやってみると、結構難しい作業でした。クローゼットの取り付けは、順番を間違えたり、パーツを付ける位置を間違えたりすると完成なくなってしまうので、慎重に作業をしました。しかし会社の人たちは素早く、きれいに、正確に取り付けていました。すごかったです。最後の現場では主に、石膏ボードの回収をし、インターンシップ最後の日の仕事が終わりました。

本当に知らないことばかりで戸惑ったりしていましたが、そんな時、友達の方々は、分かりやすく丁寧に教えてくださいました。また、学校では体験ができない色々な事をさせて頂き本当に感謝しています。

最後に、三日間という短い間でしたが、本当にありがとうございました。色々とお世話して下さいました方々、本当にありがとうございました。

インターンシップ完了報告書

【初日】

当社製造部は、道路工事で発生する建設発生土、コンクリート塊、アスファルト塊をリサイクルする事業に取り組んでおり、改良土センター、アスファルト合材プラント等を運営しています。

今回、インターンシップとして2名の愛知工業高等学校の学生を受入れるに当たり、限られた時間の中でより多くの事を学んでもらうために、当社の事業内容の説明・改良土センターの業務・合材プラントの業務・品質試験業務の4つに分類し、各担当者が学生の指導に当たることとしました。

事業内容の説明においては、現在の環境問題に対する重要性や当社の事業の必要性を伝え、研修がスタートしました。各施設の概要説明を受けた後に行った品質試験業務では、実際に目で見て触れることを重要視し、土の締固め試験やアスファルト合材のマーシャル安定度試験、混合作業などを体験してもらいました。少し疲れた表情を見せながらも、楽しみながら真剣に取り組む姿勢が見られ、とても好感が持てました。(小山)

次に名南改良土センターの研修を実施。事務所の操作盤で概要を説明した時は、何が何だか分からないといった感じが見受けられその後、現場にいろいろな機械設備を見て回った時は事務所で説明していた時とは別人みたいに1つ1つの機械設備が何かと質問がきて少しは興味を持ってもらえたと思います。悪天候の中、改良土が出来るまでの機械設備を回り雨に濡れてしまった事を反省します。(松永)

最後に合材プラントを研修。プラント設備のミキサーなどや合材の積み込み状況に立ちってもらい一連の製造の流れを勉強していただいた。更に、設備の稼動に伴いメンテナンスの実施、協力会社の作業内容、安全対策などの説明も行き、安全帯の点検及び着用の実施を体験させ、製造といってもたくさんの作業内容があることを説明し、体験していただいた。(水野)

初日担当 製造部 小山 剛史、松永 晃典、水野 辰也

【2日目】

当初予定としては、ガス管の埋設工事の現場とガス管理設後の舗装復旧工事の現場を見学してもらう予定でした。しかし、当日は雨天のため舗装復旧現場が中止となり、見てもらえなかったのが残念です。

ガス管の埋設工事の現場では、近年使用されているPE(ポリエチレン)管の施工状況を見学してもらい最新のガス導管の接続方法等を知ってもらい良い体験が出来たと思います。また、舗装復旧現場の変わりにガス管の資材置き場を見学してもらいましたが、ガス管といっても数多くの資材を使用することを知っていただいたと思います。(山田)

中日担当 導管エンジニアリング部 山田 進

【3日目】

設備営業部の工事を受注する為の営業活動から工事発注・現場監理に至る仕事の流れを、当人たちにとって理解しやすいと思われる戸建物件を例にして紹介した。この仕事の中での東邦ガスとのかかわりの部分(住設工事の組込営業を行う事での、ガス自体の販売促進)も、付随して紹介した。しかし内容が全て“伝え話す”という内容になってしまい、きっと当人たちにとっては“聞くだけ”の退屈な状況になっているものと思われた。この事より、きっと“体験する”事の方が、きっと“充実感”が得られるものと感じたので、実際にいつも使用しているCADを使い通常行っている床暖房マット敷設の設計を、その行為に対し最低限必要なCAD操作教育を行い、実際にCAD空間の中で行ってもらった。CADで設計した内容が、実際の施工ではどうなるか戸建・集合物件での住設工事(床暖房工事)に関しての紹介を施工現場での現場写真をPCのスクリーンに投影する形で行った。自分たちが行った業務というものが、実現現場でどういう形で反映されるのかが、理解してもらえたような感触を得る事ができた。(吉川)

工事現場では、作業員2名が校舎外壁にガス管を配管しているところを見学してもらい、その中で作業の危険な場所や安全に作業の出来る設備などの説明と実際に簡単な作業をしていただきました。

その作業は、外壁から教室内へガス管を通す為、コンクリートに穴を開ける専用機械の設置に必要なアンカー打ち(切り穴)作業を外壁にさせていただきました。ガス管を配管するには、いろいろな配管場所・工法・設備などの説明をさせていただきましたが、あまりピンとこなかったかも知れません。(加藤)

最終日担当 設備営業部 吉川 靖浩、加藤 定利

インターンシップに行つて

建設科 2年 麻生 弦基

今回、インターンシップで東邦ガステクノ株式会社へ行ってきました。3日間で色々な体験をして、大変勉強になりましたし、とても楽しくインターンシップを行うことが出来ました。

1日目は、改良土センターで土を良くするための機械など、学校の勉強では見ることが出来ない色々なものを見ました。そこに運ばれてくる色々な土を見て、場所によって土の性質が全く違うことに驚きました。現場から運ばれてきた土が、改良されていくまでの一連の作業を見てとても感心しました。さらに、モニターを見ながら機械の操作をさせてもらい、大変興味が湧きました。



そして、2日目はガス管の工事現場に行きました。歩道に埋まっているガス管を、新しいものに入れ替える工事でした。歩道にガス管が埋まっていることを初めて知りましたし、現場の人の説明を聞いて他にも今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。日常の何気ないことが、とても工夫されていると感じました。その後、今度はガス管を製作しているところへ行きました。ガス管には、色々なパーツや種類があり、とても驚きました。ガス工事はとても面白い仕事だと思い、興味が湧いてきました。専門用語などを使って説明してくれた人がかっこよく見えました。

3日目は、学校の配管の工事をしている現場へ行きました。様々な道具を使って作業をしている様子を見て勉強になりました。愛工も、このように配管されているんだなと思いました。今回のインターンシップに参加したことによって、自分の将来の参考になったし、いろいろなことに興味が湧いてきました。自分が将来どんな仕事に就くのか、とても楽しみです。

3日間とても充実したインターンシップでした。東邦ガステクノ株式会社の皆さん、忙しい中私たちのために貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。

インターンシップ

建設科 2年 パストロロ ワンミゲル パロ

僕は、夏休みにインターンシップに行ってきました。正直な話、参加することになった理由は、仲の良い友達に誘われたからでした。だから最初は、勉強しに行くといっても積極的ではなく、軽い気持ちでした。

お世話になった会社は、東邦ガステクノ株式会社という会社で、ただ漠然とガス関係の仕事をしているところらしい。としか知りませんでした。最初の日は、ガスの仕事ではなく、改良土センターというところへ行きました。改良土センターでは、現場から運んできた土をベルトコンベアで運びながら、塊を徐々に小さくして行って、つちの粒の大きさをそろえて行きます。ほとんどの作業を機械がやっているのですが、塊の大きさによっては機械が詰まってしまうこともあるので、モニターでチェックして見張っていたり、機械では取り除けない不純物を取り除いたりします。そこには、合材プラントもあり、アスファルトを作ったりしています。僕もアスファルトを練らせてもらい、とても楽しく感じました。



2日目と3日目はガスの工事現場に行きました。歩道に埋まっているガス管を、新しいものに入れ替えたり、学校の配管をしたりしている現場でした。実際の現場を間近に見る機会が無いので、使用される機械や様々な道具を使っているところを見て感心しました。

最初は軽い気持ちで参加したのですが、色々な仕事の内容を見て説明を聞いて、そして体験するうちに、だんだん興味関心が出てきて、本当に勉強になったと思います。また、職場の人たちも良い人ばかりで気軽にふれあうことができ、良い職場だと思いました。東邦ガステクノ株式会社のような会社に就職することが出来ればいいと思いました。

東邦ガステクノ株式会社の皆さん、忙しい中私たちのために貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。

愛知県立一宮工業高等学校

受入側

株式会社ケー・エイチ・ケー

業界発展のために

インターンシップを実施し3年になります、中学生 高校生 大学生 学校の先生に到るまで可能な限り受け入れております。

機械、刃物等危険を伴う作業もありますが最新の注意を払っております、研修終了後はみなさん「想っていたより楽しかった」と口々に言ってくれます、特に廃材で作る椅子、箸、将棋盤作りは中・高生にとても好評です。現場の人と触れ合うことにより、教える側、教えられる側、ほどよい緊張感の中お互いが勉強です。我が社もインターンシップが「仕事」のひとつにならないようにこれからも「絶対無事故を目標に家を造る楽しみ」木と触れ合う楽しさをインターンシップを通して若い人達に受け継いでいきたいと想っています。



インターンシップを終えて

建築科 2年 枝松 威典

お忙しい中、僕たち三人をインターンシップで受け入れていただき、本当にありがとうございました。

一日目の作業で楽しかったのは、注文住宅・現場見学と木工教室です。見学では、学校でまだ教わっていない軸組みについて詳しく説明していただき、とても勉強になりました。また楽しかったです。木工教室では、将棋盤を作るのがとても楽しかったです。

この日の渡辺常務の話の中で特に印象に残った言葉は、「今の内に、うまく遊んだ人が成功する。」と「同じ給料でも楽みながら人より多く仕事を行うのと、つまらないと感じながら仕事を行うのでは、将来が変わってくる。」という話です。

二日目の作業で楽しかったことは、横架材プレカット実習です。ここでは、三カ所に分かれて行いました。最初は僕と歳が近い人に教えて頂き楽しく学ぶことが出来ました。二番目は、作業の見学でした。三番目は作業が多く、これも楽しく行う事が出来ました。

この日の朝行った安全教室では、「ヒヤリハット」という言葉があることと、「ハインリッヒの法則」を教わりました。知らない知識ばかりだったので勉強になりました。三日目の作業は、すべて楽しかったです。

合板端柄プレカットでは、澤村さんが詳しく教えてくださり、勉強になりました。

午後は柱材プレカットを行いました。ここでも三カ所に分かれてそれぞれの作業を行いました。ここでの作業中、自分の不注意で手を挟んだり木を落としたりしてしまいました。

この三日間とても楽しく、学ぶことが出来勉強になりました。受け入れてくださった会社担当の方々へ心より感謝申し上げます。

インターンシップを終えて

建築科 2年 小川 博章

今回僕はインターンシップに初めて参加しました。インターンシップをやって見ようと思ったきっかけは、親に無理やりインターンシップ参加の紙を書いて渡されたことです。最初はとてもめんどろだと思いきたくありませんでしたが、先生達の話のいろいろ聞き、自分のためになりそうだなと思い、行くことを決意しました。

実際に工場に行き、作業をしてみると、どれだけ仕事が大変なのかがよくわかりました。

最初のプレカット実習では、横架材といって、母屋や小屋梁を加工したものをチェックしたり、加工するための木を機械に入れる作業などを行いました。木を機械に入れる作業では、木がとても重く木を持ち上げるだけでも大変な作業でした。加工された木をチェックする作業では、加工された木をチェックするだけなのですが、チェックする為には図面をしっかりと理解していなければなりません。簡単そうな仕事に見えましたが、意外と難しいということがわかりました。

2日目の合板端板プレカット実習では、加工された合板をたたんで紐で縛る作業や、加工された床の合板に仕上げの加工を施す作業を行いました。天井の合板をたたむ作業では、計画的にたたんでいかないと、きれいにたためない事がよく分りました。次の仕上げ加工では、合板の接合部分にバリができてしまうのでそれを取ってたたむという作業でした。こちらの作業も簡単そうに見えましたが、コツがいる作業で実際にやってみると大変でした。

今回、(株)ケー・エイチ・ケーでのインターンシップではとてもいい体験ができたと思っています。工場仕事を教えて頂いた方々はとても優しい人ばかりで楽しく仕事をすることができました。3日間ありがとうございました。

インターンシップを終えて

建築科 2年 藤島 佑太

僕は、今回インターンシップを行い、就職することに対しての厳しさや辛さなどを知ることができたので、行ってよかったと思います。就職するということは、高校とは違い、更に厳しいことだと思いました。仕事ができないと会社の方から仕事を頼まれることも少なくなりますし、給料にも影響します。更に失敗ばかりしていると会社をクビになる可能性もあるので社会に出るといことは、厳しいことだと思いました。

今回、行かせて頂いたケーエイチケーさんでは、主に機械を使った木材加工について学ばせてもらいました。機械を使った作業なので常に危険と隣り合わせであり、安全に注意し、気を引き締めて作業を行いました。更に夏の工場内は暑く、僕は3日間だけでしたが、そこで働いている人達は、ずっとこの暑さの中で仕事していると思うと、すごいと思いました。

現場での仕事を見学した時に、1日でほとんど基礎が終わっていると聞いた時は、すごいなと思いました。僕は将来、大工になりたいと考えていたので現場にいた、大工の人に話を聞かせて頂き、とても参考になりました。そこで教えていただいたとおり、体力と精神力を鍛えていきたいです。

今回のインターンシップでは、多くの事を学ぶことができ、良かったです。3日間ありがとうございました。



『高校生による現場実習』受入会社感想文

1. 高校二年生二名が参加していただき、まず、熱心さと元気さに感心しました。
2. 実習内容として
 - a. 新築現場、改修現場の見学。
 - b. 木工事で床の組立方法。
 - c. 内装工事で、プラスターのビス止めを道具を使用して止める。
 - d. トランシット、レベルなどを使用しての測量。
 - e. トラックの荷物をロープで締め方の実習。以上のことを三日間で実習してもらいました。
3. 二名の高校生は協力し合い、実際の作業の体験はとても貴重な経験と思います。
4. 当社にとりましても、よい緊張感と新鮮さをいただき、感謝いたします。



インターンシップを終えて

建築科 2年 寺澤 優真

僕が丹羽工務店で学んだ事は、「職人同士の上下関係」と「仕事をしていく上では少しのミスも許されない」事です。

インターンシップ初日は、完成した家を見学させて頂きました。どれも個性的な住宅で良かったです。

2日目からは実際に現場に出て、作業を体験したり、トランジットやレベルを使った練習などを行いました。

3日目は施工中の家の基礎から床組までの作業を2人で行いました。基礎は割合楽にできましたが、床組の施工は、難しくかなり時間がかかりました。しかし、職人さんは我々2人よりも遙かに早く仕事を進めているのを見て、手際の良さに感心させられました。

僕もいつかはこのような職人になりたいと思っています。この3日間、いろいろと教えて頂きました。感謝しています。



インターンシップを終えて

建築科 2年 高野 翔平

私は、3日間、丹羽工務店でインターンシップを体験させて頂きました。初日は、現場に向かいました。そこでは普段、学校で勉強できないことを沢山学ぶことができました。現場では高い所や狭い所、危険な場所がいくつもあることが分かりました。

2日目は、現場で床下の断熱材やビス打ちの施工を体験させて頂きました。実際、自分で作業をしてみるとかなり大変で、疲れしました。1つ1つの作業がとても大変でビス打ち1本にも力が必要で、釘を打つのに1回1回、集中しなければなりませんので、本当に疲れしました。

3日目は名古屋市の現場を見学させて頂きました。車で移動するだけでも大変でしたが、そこから作業をするので、この仕事は体力が必要であると実感しました。そしてトランシットやレベルなど使わせて頂き、高さの出し方などを教えて頂きました。

最後に今回のインターンシップで学んだ事は、体力、知識、情報力など様々な知識がないと大工は動まらないという事です。この3日間、本当に為になったと感じています。インターンシップに参加し良かったと思います。



高校生インターンシップ受入感想

今回、当社としては初めて型枠施工のインターンシップ受入を3日間行いました。

1日目 会社概要・作業内容の説明を行った後、作業現場へ作業内容の見学

2日目 木材加工に必要な道具の説明、ベニヤ・桧木を用いて木材加工の実習

3日目 竣工前作業現場の見学、木箱の作成実習

現場見学では、建設中の作業現場へ入ること自体が全員初めてということもあり、少し緊張が見られましたが次第に生徒からも質問などもあり、会社で説明した作業内容が直接自分の目で見ることで少しでも理解していただけたかと感じました。

木材加工の実習については、実際の型枠を組み立てる作業は時間的に難しかったので、木材加工の実習を行いました。使い慣れない道具で一生懸命最後まであきらめずに楽しく行うことができましたと思います。

受入を行うにあたって、作業現場の見学であっても服装・マナーがあり、実習では金槌・のこぎりといった道具を使用しますので切傷・打撲の災害も考えられるので、雇入教育の安全教育を行いました。3日間に渡ってケガをすること無く終了することができましたので安心致しました。

全体的に感じた事は、生徒の理解力の良さでした。来年もこういった機会がある時には、もう少し実践に近い実習を行っていききたいと思います。



担当者 総務部 中村 俊樹

インターンシップを終えて

建築科 2年 奥田 大介

この三日間はとても貴重な体験をすることができました。

まずは普段では目にすることができない現場の様子を見学させていただきました。ヘリポートや作っている途中のビルの中を見れたことが一番心に残っています。

二日目は型枠基礎二級の実習を体験させていただきました。学校では使わない道具を使うことができとても勉強になりました。中でも釘を打つ練習を何度行いました。釘を打つと釘が曲ってしまう事が何度かあって困っていると松村さんがまっすぐに振り下ろすと垂直に打ちつける事が出来る事を教えていただきました。その教えのおかげで釘を曲げずに打ち付けれるようになっていきました。



三日目は愛知県産業労働センター新築工事の作業所を見せていただきました。フェロ構造やフラット構造の違いについて詳しく教えていただきました。その後、工場に戻り、ベニヤ板で箱を作りました。この時に二日目に教えていただいた事を活かして、うまく箱の形を作ることが出来ました。少し誤差はありましたが、慣れていけば誤差がないようにできると言っていました。

最後に、中村社長をはじめ松村さん、中村さんからお話を頂きました。今後、就職活動で仕事を選ぶ上でどのような仕事を選択したらよいか参考になりました。

三日間貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

インターンシップを終えて

建築科 2年 祖父江 隆則

インターンシップ初日は緊張して、会社に伺ったのですが、担当の方の話を聞いているととても優しく面白い人だったので安心しました。

最初のオリエンテーションでは、会社概要の説明を聞きました。創業は昭和28年3月で想像していたよりも古く驚きました。その後、作業場を見学しました。一番印象に残ったのは図面を書いているところを見学した時、ペーン本と定規だけで綺麗な図面を書いていたことです。自分も綺麗な図面を書けるようになりたいと思いました。



昼食後、建設中のマンションの現場に行きました。実際に見学させて頂き、型枠の仕事が少し理解できました。その後、作業場に行き、型枠基礎2級の問題を行いました。用意されたベニヤ板枚に墨つぼで墨付けをしてノコギリを使って切るものです。その日は雨が降っていた為、屋内での作業でした。とても暑かったです。釘を打つ練習をした後、ベニヤ板を釘で組み立てました。二日目はこの作業しかしてないけどとても疲れしました。

最終日は名古屋市内の新築工事の現場を見学させて頂きました。屋上まで上がり、ヘリポートから見た景色はとても綺麗でした。工事が終わったらどのようなビルになっているのか見たいのもう一度行ってみたいです。昼食後は用意されたベニヤ板を釘で打ちつける作業でした。とても難しく、打つ場所を間違えるとベニヤ板が割れてしまいます。しかし、楽しく進めることが出来ました。

今回のインターンシップで普段体験できないことを見たり体験するところが出来とても面白かったです。

インターンシップの感想・反省

土木科 2年 濱口 誠治

今回のインターンシップは、予想以上に充実した三日間でした。

一日目は、オリエンテーションで型枠工事作業説明をしてもらい、なぜ型枠の板同士が倒れずに立っていられるかを教えていただいたり、工事現場見学で工事中のマンションを見学し、コンクリートは1フロアごとに入れていく、などのとてもためになることを教えていただきました。



二日目は、実習で、朝は、道具の説明をしてからの実習でした。実習の内容は、型枠基礎2級検定に似た工作をすることでした。ここで初めて墨つぼを使いましたが、なかなか真っ直ぐに線が出なくてすごく難しかったです。他にも板をのこぎりで切断するときに、なかなか線どなりに切れず何回も脱線してしまいました。この日は失敗が多くて自分の中ではかなり悔しかったです。

三日目は、名古屋の愛知県産業労働センター新築工事作業所と言うところに見学をしに行きました。まずは、屋上のヘリポートを見せてもらいました。ヘリポートは、担当の松本さんでも入ったことがないそうで、とても貴重な体験をさせていただきました。その後は、建物の中を回り、構造についての説明をしてもらいました。

この三日間のインターンシップを終えて思ったことは、自分も将来大きな仕事を任せられるように、もっともっといろいろなことを学んで技術力の向上を目指したいとゆうことを思いました。

三日間とゆう短い期間ではありましたが、とても多くのことを学ばせてもらった三日間でした。カネショウ工務店の皆さん、本当にありがとうございました。

インターンシップを終えて

当社は、県立一宮工業高校の実習生を迎えるに当たり、愛知県発注の県道63号名古屋江南線道路改良工事、同じく愛知県発注の一宮春日井線岩倉跨線橋工事、岩倉市発注の岩倉南小学校貯留施設築造工事の3現場を選択しました。この3現場を選択した理由としては、土木工事と一言でいっても色々な工事あるいは、職種があることを実習生にわかって頂きたい事と、その仕事にあわせて色々な機械・道具を使用して仕事を進めていることを実感して頂きたいと考えました。

そこで実習生は、日頃見慣れない機械に興味を持つと同時に、道路や橋が出来上がって行く手順、方法などについて積極的に質問があり土木工事に対する関心の高さが感じられました。

また、土木学科の学生と言うこともあり、測量・写真管理の助手だけでなく実際にスコップをもって手元作業をするといった多方面にわたり、実際の作業を通じて、学校ではなかなか体験できない仕事の大変さ、厳しさ、または物作りの楽しさ等を体感されたことと思います。

実習生2人は、この実習に入る前までは土木のイメージがあまり良くなく「怖い人が働く職場」と思っていたようです。しかし、3日間実習をして当社職員、作業員と触れ合う中で、「以外にみなさん優しくかったです。」と人間関係についても体感して、私も土木に携わる人間の一人として嬉しく思いました。

最後に、このような体験学習は生徒さんの就職活動の参考となり、さらに土木に対する学習意欲を増して欲しいと思います。

今回のインターンシップを実施して行く中で、実習生2人は、最近見られなくなった“礼儀正しく、意欲を持った”若者2人だと思いました。また、学生さんの姿を見てこの業界に入った30年前を思い出し、私自身も“初心”に帰った気がしました。

土木部 工事課 工事課長 松本 勝明



インターンシップの感想・反省

土木科 2年 稲垣 孝晃

一日目は、四ヶ所の現場を見学した。一ヶ所目は、事務所の近くにある工事現場を見学しこの現場は道路の拡張している現場でした。二ヶ所目の現場は事務所の近くにある線路の上に鉄橋を架けている現場を見学した。三ヶ所目の現場は事務所から車で少し行った所にある橋梁を架けている現場を見学した。この現場は作業を一端中断する期間だったので工事の様子を見ることはできませんでした。四ヶ所目の現場は橋梁の現場近くにある小学校で地下に貯水施設を設置している現場を見学した。自分が見学していた時は、ハット型鋼矢板を埋め込んでいた。その時に、見たことのない機械を使ってハット型鋼矢板を埋め込んでいた。



二日目は、道路の拡張をしている現場を見学した。午前中はU字溝の溝を作っている所を見学した。最初はショベルカーで地面を掘って溝を作りきれいに整えていた所で午前中は終了した。午後は測量の体験をした。測量した場所は道路の拡張をしている現場で最初は難しいと思っていたけど測量の仕方は、ほとんど学校で習ったことと一緒だった。現場の人たちは、丁寧に分かりやすく教えてくれました。

三日目は、地盤改良工事の現場を見学した。その現場は地盤が悪いため地盤改良をしていた。エポラム工法で地面に穴をあけながらセメントペーストを流し込み地盤を改良する作業だった。午後はU字溝の据え付け作業を見学した。見学している途中で現場の作業を体験した。体験した作業はU字溝を据え付けする前にセメントペースト敷き詰める作業で砂を敷き詰める時、砂が重たく感じた。この三日間でいろいろな体験をし、とてもいい勉強になった。

インターンシップの感想・反省

土木科 2年 出口 雅浩

八月四日から八月六日までの三日間、僕はインターンシップで大興建設株式会社という会社にお世話になりました。

僕がお世話になった時、大興建設岩倉支店では、四つの仕事を引き受けていました。

一つ目は、一宮市千秋町屋地内の道路改良工事でした。今回はこの工事を少し体験しました。僕が体験したのは、字溝の据え付けです。現場の人がクレーン付きバックホウで地面を削ってできた溝を寸法通りに整えてそこに字溝を据え付けました。

二つ目は、岩倉市鈴井町地内の鉄道の上に橋をかける工事でした。この工事は、とても大きな機械で穴を掘り、掘った穴にセメントを流し込んで支柱を作るところを見学しました。

三つ目は、岩倉市曾野町地内にある五条川に橋をかける工事でした。この工事は川の水が梅雨の影響で増水して、事故になるのを防ぐため、一時中断していたため見学することはできませんでした。

四つ目は、岩倉市大地町地内にある、岩倉南小学校の地下貯留施設設置工事です。この工事は、小学校の地下に貯水用のタンクのようなものを埋め込み、雨が降ったら一旦雨水をタンクに溜めて晴れた日などに少しずつ用水に流していく為の工事でした。僕が見学した時は、矢板を土に埋め込むところでした。

今までに見た事のないものをたくさん見ることができて、とても楽しかったです。工事の人たちも優しく、わかりやすく教えてくださったのでいろいろ知ることができました。

少しぼーっとしている時や、見学に集中しすぎて工事の人の声が聞こえなくなる時があったので、これを改善したいと思いました。



インターンシップにて

今回、高校生の現場実習を実施させてもらい感じたことは、真面目な実習生でした。ただ怪我などさせてはいけないと思い、本当の軽作業しか実習させられませんでした。また重作業を実習させると、土木工事がいやになってしまい中小企業の建設会社の選択を辞めてしまうかとも思うと、実習させられませんでした。

家のような小さな会社では、現場監督業と作業員業を両方こなさなくてはいけないのが実情です。なかなか今の若者を働かせてみると長続きしなく、こちらも採用までいきません。よほど事情があって、この業界に入ってくる子は別ですけど、やはり現状では、『きつい』『きたない』『危険』に加え仕事の割には給料が安いでは魅力も感じないと思います。

もっと土木作業(肉体労働)の賃金を、国全体から考え直してほしいと思います。

インターンシップの感想・反省

土木科 2年 宮下 遼輔

インターンシップで加藤建設に行った時、最初は、すごい緊張してたけど作業員の方々みんな優しくかったので緊張が吹っ飛んで安心しました。

インターンシップ初日は、作業が終了してから現場に行って必要な道具をトラックに積みました。さっそく次の作業を開始する現場に向かったのですが、天候が悪く、仕事内容の説明を聞くだけに終わってしまいました。やむを得ず2週間前までやっていた現場の掃除をしました。

その時雨がやんで、いたので今日からやる現場に向かっている途中さっきまで掃除していた現場でアスファルトの厚さを調べるためにアスファルトを切る作業を見に行きました。

アスファルトの切り方にびっくりしました。あと狭い道とかのアスファルトの厚みは5センチと聞いて厚さにも指定があるなんてびっくりしました。

二日目と最終日の作業は、まずショベルカーでアスファルトを剥がした後の石などを箒ではいたり、側溝を持ち上げた時に落ちた石などをはいたり、砂などを掘り出した時に落ちた砂利などをはきました。次に、新しい砂利を決まった高さ

に埋め戻し機械で整えて新しい砂を上にかけてその上に側溝を乗せて横に砂利を入れて機械で整える作業をしました。

工を手伝って思ったことは、こんなに大変な仕事を毎日やっていてすごいと思った。水分補給を十分しないと熱中症

になってしまうと思いました。

また、アスファルト、コンクリート、砂利などは全てリサイクルしていることにびっくりしました。

この三日間で学校では体験できないことを体験できてすごい勉強になった。



インターンシップの感想・反省を終えて

土木科 2年 村橋 雄太

1日目は、病院付近へ行って片付けを手伝った。道路に水が溜まっていて工事することが出来なかったので千秋の現場へ行き、市役所の検査があるので、道路の掃除をした。道路についた落ち葉が中々取れなくて大変だったし、合羽を着ていたのととても暑かったです。その後、雨がひどくなってきたので12時で終わりにになりました。

2日目は、丹陽の現場で側溝工事を手伝いました。8時半からでないと工事が出来ないと初めて知りました。重機を使ってアスファルトをはがしたり側溝をはずしたりしているのを見たときとても驚きました。昼からは道路の検査のために、千秋の現場へ行きました。市役所の検査で不備があれば注意されるらしくとても緊張しました。道幅を測ったりアスファルトの厚さが5センチかどうか測ったりしました。その後現場に戻り5時まで手伝いました。頑張ったのでとても疲れました。けれど充実していてすごく楽しかったです。

3日目は、丹陽の現場で2日目の続きを手伝いました。同じようなことをやっ

ていても本来は色々な現場へ行くのでとても楽しそうだと思います。1日目が雨で中止になったのでインターンシップ中に丹陽の側溝工事を終わらせることが出来なくて少し残念でしたが楽しく仕事ことができました。

3日間、緊張しっぱなしで全然役に立つことも出来なくて残念だったけれどこのインターンシップを通して仕事の大変さ

や楽しさを勉強することができました。

最初はあまり気乗りしなかったけど加藤建設の皆様が親切にしてくださったおかげでとても楽しくすごすことが出来ました。

3日間ありがとうございました。



平成21年度 インターンシップ感想文

今回の高校生による現場実習は、国土交通省発注工事である一般国道302号線の春日井市細木町地内にて環境対策の一環として施工中である遮音壁新設工事現場で実習を行った。

初日の午後より二人の高校生が来場し、まず始めに本工事についての工事概要及び内容等について説明を行った。説明の際、二人とも興味深く熱心に説明を聞いていた。

最初は二人とも緊張していた様子であったが、私自身の出身高校ということもあり説明終了後に高校生活について質問すると先生や部活動等についての話を色々聞かせてくれた。

初日の説明終了後から2日目、3日目にかけては当社職員と共に、建設現場における日常管理業務や測量実習を行った。二人にとっては見ず知らずのことばかりであったが、一生懸命実習に取り組む姿が印象的であった。

今回の現場実習で二人の高校生と共に現場生活をして感じたことは、何事にも真剣に取り組む姿を見て、当社社員一同、初心に戻り業務に対する熱意を再度高揚することができた。又、指導方法や説明方法の難しさを学ぶことができた。

最後に、二人へ将来は建設業関係の仕事に就職するか聞いて見ると、二人揃って、「そのつもりです」との回答があった。

今回の現場実習により、将来の建設業のためにも若手建設業従事者が増えることを期待すると共に、一緒に仕事ができることを楽しみにしたい。

以上

丸井 智広



インターンシップの反省・感想

土木科 2年 後藤 俊亮

僕は今回のインターンシップで仕事とはどのようなものかを学びました。

1日目はまず会社の説明を聞きました。どんな仕事をしているか、どのような会社の規則があるのかといった色々な説明を聞きました。仕事は道路建設や橋を建てたりと様々でした。次に安全教育を受けました。KYTの考え方とリスクアセスメントによる安全対策を教わりました。午後から現場に行きました。現場では工事写真の撮り方と測量をしました。

工事写真とは何の工事をしているか黒板に書いて、その黒板を持つ人と工事状況が全部入るように撮るものでした。測量は鋼管杭の高さを測りました。測量はとても大事なんだということを身をもって体験することができました。

2日目は朝から現場でラジオ体操と朝礼に参加しました。朝礼ではその日の仕事の内容とどんな事に気をつけるのかを話していました。昨日に引き続いて測量をしまして鋼管杭が正しい高さに設置されているかを調べるものでした。炎天下の測量は大変でした。作業服が暑くて汗が止まらず作業服が汗でびしょびしょになってしまいました。

3日目は光波測距儀を用いてコンクリートに墨付けをしました。担当者の方が丁寧に教えて下さったので簡単にできました。

3日間を通して多くの方にお世話になり、親切に丁寧に土木について教えていただきました。この経験はとても自分のためになったし、就職のためのいい参考になりました。機会があればまたやってみたいと思います。



インターンシップの感想・反省

土木科 2年 長屋 康平

僕は、8月18日にインターンシップでイチテックに行きました。

1日目は、7時半集合だったので、6時40分くらいに家を出て本社に行きました。家を出たころにはさほどでもなかった緊張感も、本社が近づくにつれて、高まっていきました。

本社についたら、最初に朝礼に参加しました。ラジオ体操をして、そのあと簡単な自己紹介をしました。そこでは、すごく緊張していて少し嘔んでしまいました。

朝礼が終わった後、伊貝総務部長に本社案内と、就業規則他規定類説明をしてもらいました。読めない漢字があって勉強不足を遺憾させられました。次は、馬場工事次長に安全教育について、教えてもらいました。KYT(危険予知訓練)・リスクアセスメント等、新しく覚えるものがたくさんありました。

昼からは、現場研修に行きました。遮音壁という高速道路の下にある騒音などを遮る壁を作っている所へ行きました。この日は、現場の流れなどを教えてもらい、工事写真、鋼管杭の高さの確認をしました。

2日目は、6時45分に本社集合でした。そこから直接現場に行きました。現場では、本社と同じように朝礼・ラジオ体操をして、自己紹介をしました。ここでも緊張のせいか、うまく話せず、コミュニケーション不足を遺憾しました。次に、1日目と同じように現場の流れを確認して、12時まで、不要になった木の片付けをしました。最後に鋼管杭の高さを調べるために測量をしました。

3日目は、2日目と同じように現場に行って測量をしました。

インターンシップに行って、自分の知らない多くのことを学びました。本当に良い体験ができたと思います。



平成21年度 高校生建設現場実習について

最初に日光川作業所工事内容について、愛知県発注の場所打ちカルバートボックス(内空5.700W×4.890H)を延長L=80.0m構築する工事です。

目的は、日光川・領内川の上流からくる洪水の一部を木曾川へ排水する事で日光川流域と領内川流域の浸水を軽減させる工事です。

現場実習日の7月21日・22日・23日の選定はこの3日間で鉄筋の組立・型枠の組立コンクリートの打設と作業順序が理解し易いと思い実習日としました。

最初は、会社・現場の概要説明をパンフレット・現場図面等を使用して分かりやすくし、現場は、朝からラジオ体操・ミーティングから始り昼の施工打合せまで参加してもらい現場作業場では、山留の架設・掘削の深さ・構造物の大きさに戸惑っていた様ですがその反面大変興味を持っていた様に感じました。

又、学校では体験出来ない様な鉄筋の管理・測量機器の取り扱い方法・実際にコンクリートへの墨だし・コンクリートの打設体験等々出来る限り体験していただき物作りの楽しさ・大変さが少しでも理解出来たのではないかと考えています。

これを機会に建設産業に興味を持っていただき建設業界へ進み次世代を担うと言う夢と希望を持って今後の学校生活・将来に役立ててほしいと思っています。

最後に3日間私ども職員も大変勉強になりました。

ありがとうございました。

現場代理人 後藤 久雄



インターンシップの反省・感想

土木科 2年 熊切 直人

僕は今回インターンシップに行き行って学んだことや思ったことは、工事を始める前にいろいろな書類を出すことから始めていくんだなと思った。

そしてその書類にサインをもらったら工事をする場所に看板を立ててやっと作業をできて、作業に入る前にいろいろやるのがわかった。

インターンシップの一日目は、会社の説明や工事目的についての説明を聞いてから現場にいったからまたいろいろとくわしく説明を聞いて、午後からは測量機の説明で光波測量とオートレベルについて聞いた。

二日目は、まず鉄筋の溶接を見て説明を聞いてから現場の手伝いをして現場の安全管理について説明を聞いて、午後からは現場の墨入れをしてから書類を見ながらいろいろ説明を聞いた。

三日目は、コンクリートについての説明でコンクリートの単位水量、空気量、スランプコンクリート湿度、塩分量確認とかの説明を聞いてから現場で鉄筋が組まれているところにコンクリートを流し込むところを見て実際に道具を持って固まってないコンクリートから空気を抜くというのを体験させてもらった、午後はコンクリートの会社に行って、コンクリートの強度の調べかたについて説明を聞いた。

今回インターンシップに参加して鉄筋の溶接の仕方やコンクリートについていろいろなことが学べてよかったです。またこうゆうきかいがあったら行ってみたいと思いました。

渡邊組のみなさん三日間ありがとうございました。忙しい中三日間僕たちのために時間をいただいて本当にありがとうございました。



インターンシップの感想・反省

土木科 2年 森 優太

僕はこのインターンシップを通して多くのことを学びました。

一日目の午前中は緊張のあまり担当の人たちと話すことができませんでした。しかし午後になると、ずいぶん気持ちも和らぎ少しずつですが会話することができるようになりました。初めに現場の説明や色々な資料を見て説明をしてもらいました。現場で働いている人たちも一見怖そうに見え、近寄りたがたい存在でしたが仕事を見学していく中でも楽しそうな人達と知ることができ、自分自身も楽しく作業することができました。

二日目は朝、駅についてから現場まで少し距離があったので担当の人に迎えに来てもらい、現場まで行きました。二日目もほとんどが現場の説明などでした。働いているみなさんはとても忙しかつたので、あまり会話もできなかったです。二日目の午後は壁に墨入れを行ないました。以外と大変で地面もぬかるんでいたのて二回すべって倒れそうになりました。働いている人たちは毎回こんな大変な作業をやっているんだと思いました。

三日目は朝から生コンクリートの打設と聞いていたので初めは見ているだけでしたが途中から手伝いもしました。作業服はどろどろになりましたが、学校では経験したことのないことを教えてもらえたのはとても嬉しかったです。

最後にお礼を書きたいと思います。はじめに三日間ありがとうございました。次に僕たちの分からないことをわかりやすく説明してくれたりお弁当やお茶などを用意していただきありがとうございました。三日間お世話になりました。学校の授業だけでは経験できない事を、色々経験させてもらいました。また仕事の忙しい中ご迷惑を掛けたいと思います。本当にありがとうございました。



高校生職場体験

2日間という短い期間でしたが、道路整備工事の現場を体験してもらいました。
まず朝礼から始まりKYミーティングの参加、新規入場者教育を実際に体験してもらい現場へむかいました。
工事概要は既設の側溝を取り壊し、側溝、柵を新設し全面舗装をし道路幅員を拡張する現場を体験してもらいました。

1日目既設側溝を取り壊し、掘削、基礎工、側溝布設、埋め戻しまでの一連の流れを体験してもらいました。
2日目も同様の工事でしたが使用する側溝の寸法など測り材料検収を行いました埋め戻し時の転圧など体験してもらい道路が出来ていく大変さを体感したと思います。

大岡君にとって2日間という短い期間でしたが将来に少しでも役に立ってもらえたら幸いです。

馬込 慎一郎

職場体験を終えて

今年も二人職場体験にやってきました。その一人蜂須賀君が自分の担当になりました。毎年職場体験にやってくるのでだいたい何をやらしてもらおうかというのは考えているつもりですが、稼働している現場のタイミングもあるので結局当日決めることが多くなってしまいます。その中で今回は、道路側溝工事が着工中であつたのでその手伝いをしてもらいました。と言っても工事看板にシールを張ってもらったり、ほうきで作業現場内を掃除してもらったり単純で気の長い作業だったと思います。職人さんのぶっきらぼうな態度もあつたり、とにかく一日が長く感じたのではないのでしょうか？決して意地が悪いわけではありません。きっと作業で手一杯だったのだと思います。ただ、そんな時こそいろいろと職人さんに何か聞いてもらおうと面白い話しが聞けたかもしれません。ただ体験に来てそのまま帰っては何もならないと思うのですがどうでしょうか？どうしても現場へ来るとおとなしくなってしまうがちなので適当に緊張感を持ってもらうのも大切なのですが、もう少しリラックスしてもらってもいいかなと思いました。ただ、僕がリラックスできないオーラを出していたとしたら、来年は気を付けようと思います。

加藤 久詞



インターンシップを終えて

土木科 2年 大岡 俊晴

私は7月21日、22日の2日間、インターンシップで浅井土木建設株式会社にお世話になり、初めての体験を数多くしました。

1日目で驚いたのは、朝のラジオ体操でした。なぜ驚いたかという、私達が学校で行っているラジオ体操と比べて、社員の方々がすごく生き生きとして、楽しそうにやっていることでした。ラジオ体操が終わると、ひとりの社員の方が「今日も一日頑張ろう。」と言うかけ声で、一斉に残りの社員の方々も「頑張ろう。」という声があがり、会社が大変まとまっている感じを受けました。その後、会社の方が「モルタルを練ってみるか。」と言われました。初めは作業員の方と一緒に練りました。次にひとりで練ってみるようになりました。セメントと水の比率が悪かったのか、軟らかくなってしまいました。学校ではコンクリート実習があるので、そのときはこの経験を活かし、きちんとやりたいと思います。

2日目も昨日と同じ現場で作業をしました。朝、ガードマンの方から「土木の仕事はどう思う。」と聞かれ、私は「とてもやりがいがある仕事です。」と答えました。昨日一日働いてみて、土木という仕事はとても大変な仕事ですが、生活していく上でなくてはならない職業だと実感したからです。

初日からいろいろな仕事をやらせていただき、社員の方には危険予知の大切さや、作業の能率をあげるにはどのようにしたらいいかなど、現場で仕事をする上で大切なことをたくさん教えていただきました。この体験は学校ではできないものでした。また、社員の方とは楽しい会話もしていただき、本当に充実した2日間でした。今回のインターンシップでは、みんなで協力してやることの大切さを学びました。自分の将来を考える上で、貴重な体験をすることができました。



インターンシップを終えて

土木科 2年 蜂須賀 隼

私は、インターンシップで浅井土木建設株式会社に、7月21日、22日の2日間お世話になりました。

事前の説明会では、日程説明と朝のラジオ体操、KYミーティングの話がありました。朝のラジオ体操がどの職場でも行う恒例行事であることを知りました。また、KYミーティングの「KY」の意味が何なのかという疑問が浮かびました。これから始まるインターンシップに期待と不安が浮かんできました。

初日は7時20分に会社に着き、ラジオ体操・KYミーティング・挨拶をしました。とき、「KY」というのは「危険予知」のことであることがわかりました。土木の現場は常に危険と隣り合わせであることを知りました。その後、ラジオ体操を行いました。「今日も一日頑張ろう。」の一声に、残りの社員の方々から「頑張ろう。」という掛け声があがり、感動しました。私も仕事にやる気が出て来ました。今日の現場は、舞木町の道路維持の仕事でした。日頃は入れない工事現場内で実際に作業することになるので、わくわくしました。作業内容は、主に職人さんの手伝いと作業場の掃除でした。職人さん達は段取りよく仕事をどんどん進めていきますが、自分には全然わかりませんでした。仕事の難しさを実感しました。

2日目は気持ちを切り替えて、昨日以上に仕事を覚えて頑張ろうと思いました。今日は少し緊張が解けて余裕ができ、職人さんと会話ができるようになりました。作業の手伝いも、状況を見ながら対応できるようになったと思います。

初日からいろいろな仕事をやらせていただき、現場で仕事をする上で大切なことをたくさん教えていただきました。まだ自分は具体的な進路は決まっていますが、現場監督さんや職人さん達に教えていただいたことは、これからの人生に大いに生かしていきたいと思います。



建設現場実習を終えて

7月23日・24日の2日間、建設現場実習で2人の若き技術者候補が職場体験する事になり、少しでも将来の為になる様に下記の体験をして貰いました。

体験初日は、本社でのラジオ体操と朝礼、後に実習予定と注意事項の説明をし、自社の資材置き場へ向かい重機を使って岩塊を破碎する作業の説明をする。岡崎は石の町で岩の発生量が多く、各現場で発生した残岩を15cm程に破碎し、残土と混合し盛土材とし再利用する為と説明し実務を見せる。



この作業の問題点は、粉塵、騒音、振動の環境面及び貯留土として保管してある箇所からの雨天による地区外への濁水防止が大事と説明する。濁水防止は土の締め固め、矢作川方式による沈砂池、小堤等で対応と説明。

次は官庁工事の(仮称)岡崎市新一般廃棄物中間処理施設(自社は下請け、元請の了解済み)の現場担当者に交代し、現場の概略と作業内容の説明、光波距離計による杭の位置だしと現場の視察をした。

初日最後は、民間工事の宅地造成工事(元請負)で、現場担当者より、現場説明、水準測量及び計算の実務をした。

2日目は同じ宅地造成工事の現場にて終日体験して貰う。

作業は擁壁工事の基礎杭完了、均しコンクリートを打設し底版の配筋組み中の為、トランシットの据付及び墨だし作業、仮置土の防災工として、シート養生及び土のう作成の体験、着工前から現在の進捗状況の説明(パソコンによる写真確認)、水準測量の復習、野帳の書き方で体験終了と成りました。

磯村君、谷君、暑い中ご苦労様でした。初めての実務体験で心身共に疲れたと思いますが、熱中症等にも負けず、体験を無事に終えて安心しました。

短い体験で有りますが、せっかくの機会、これを生かすかは2人の考え、受け方しだいです。

聞く、読む、見る、行動する(体験)と情報収集等はいろいろ有りますが、どんな職業、作業も体験が1番だと思っています。

いろんな情報、行動を生かし自分の将来を念頭に置き、これからのすべき事を考え高校生活を送って頂きたいと思います。

ぜひ、土木技術者として職に就かれる事を切望します。

土木部 工事課 白井 快晴

インターンシップを終えて

土木科 2年 磯村 大介

私は、7月23日、24日の2日間、白濱建設株式会社でインターンシップをやらせていただきました。学校ではできない貴重な体験をすることができました。

1日目は、まずラジオ体操と朝礼に参加しました。朝礼では、今日一日の内容を確認しました。その後、熱中症の話がありました。熱中症にならないための心構えや対処法、その危険性などを教えてもらいました。その後、岡崎市クリーンセンター第2館の工事現場へ行きました。邪魔にならないように、担当の方と一緒に見学しました。ここでは、光波測距儀を使った測量を体験しました。初めてでしたが、とても親切な担当者の方のお陰で大きなミスもなく、無事終えることができました。午後からは現場を移動し、これから新しく建物を建てるために盛土をした現場に行きました。ここでも最初は現場を見学し、説明を受けました。とても熱心にわかりやすく説明していただきました。見学後、レベルを使って水準測量を行いました。レベルを使うのは久しぶりで、据え付けや読み方に不安がありましたが、担当者の方がとても優しく説明をしてくださって、スムーズにやることができました。測量結果は残念ながらあまりよくありませんでした。学校に帰ったら、もう一度練習しなければと思いました。



2日目も昨日と同じ現場でした。今日は昨日と違う会社の人たちが見えました。建設現場はいろいろな会社が関わりあっていることを知りました。今日はトランシットを使って測量を行いました。学校ではほぼ平坦な所で器械を据えていたので、段差のある現場には、最初のうちは戸惑いました。測量の体験を終えた後、土のうを作りました。土を袋の中に入れ、盛土の斜面に張ってあるシートが飛ばないように、土のうを載せました。土のう袋の縛り方、取り付け方など、現場でしかできないことが体験できて良かったです。

今回のインターンシップを終えて、いろいろなことを学ぶことができました。学校ではやっていない測量器械を使ったり、現場で土のうを作ったりと、新しい体験ができました。また、建設現場は作業員全員の協力が大切であることを知りました。自分の将来を考える上で、貴重な体験となりました。

インターンシップを終えて

土木科 2年 谷 隆司

今回、私は7月23日、24日の2日間、白濱建設株式会社でインターンシップでお世話になりました。

初日は、まずラジオ体操と朝礼に参加しました。朝礼では、熱中症対策や安全管理の話を行いました。続いて、土木工事における現場監督の仕事内容を教えてもらいました。その後、田口町の資材置き場に移動し、見学をしました。そこでは、大きな石を砕いて、大きさを調整した砕石を作っていました。次に岡崎市クリーンセンターに移動しました。ここでは、とても大きくて広い現場でした。ここでは測量を行いました。測り方など初めてのことが多かったですが、現場監督の方が丁寧に教えてくださったので、わかりやすかったです。測量誤差はあまり出なかったので、安心しました。学校での実習とは少し違っていたので、とても貴重な体験をすることができました。



2日目は昨日の午後と同じ幸田町の現場に行きました。現場監督の方から作業内容の確認と危険予知活動について説明を受けました。始めに現場を見学し、次にレベルを使って水準測量を行いました。学校とは違い慣れない場所でやったので、少し難しかったです。午後からは、土のうを作りました。袋に土を詰めて口をひもで縛り、ロープを取りつけて盛土のり面に設置しました。初めての体験で、緊張しましたが、うまく設置することができました。その後、L型擁壁の基準高を確認する測量作業を行いました。また、現場監督の方からは、土木施工管理技士の資格の大切さ、必要性について、詳しく説明していただきました。

今回のインターンシップでは、学校では習っていないたくさんの体験をすることができました。そして、危険予知の大切さを知りました。終わって見ると、この2日間は本当に充実していました。このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

高校生のインターンシップを終えて

8月4日～6日の3日間、半田工業高校建築学科2年生の中川大輔さんと西下彰さんのお二人と土木学科2年生の青池真理さん、田中翔穂さんお二人の計4名がそれぞれ建築、土木の現場で実習されました。建築は「日本ガイシ(株)知多工場」、「(仮称)メイツ泉新築工事」及び「(仮称)岩滑こども園建設工事」の3現場でした。土木は「臨海用地造成事業空港島整備工事(その6)」、「衣浦港改修(道路(改良))工事その6」及び「港湾区域海岸改良(護岸補強)工事その3」のやはり3現場でした。皆さん、当初は緊張していたようですが4人とも真面目で明るい生徒さんでした。実習では、指示した作業に真剣に取り組んでくれました。ただ、3日間とも大変暑い日でしたので建設業の作業は自然との係わりがとても深いということ、学校で勉強した仕事と実際現場に出て体験した仕事は大きく違うことを感じられたのではないかと思います。

早朝から出勤、体操、朝礼、当日の作業の安全対策等で大変忙しかったと思われま。建設業は未だに世間で、3K(危険、汚い、きつい)であり、不況の代表業種と言われ、縁の下の力持ち的存在とされております。しかし、屋外で働くことの喜び、辛さ、多くの職種が一丸とならなければ建造物が完成しないこと、反面、その苦勞が実ったときの充実感も少しだけわかっていただけたと思います。完成した建物、道路等は町の景観の1つとして残り多くの人々の目にふれることとなります。4人共、所々で積極的な行動が見受けられ「実習」に対する意気込みを感じ私達はとても嬉しく大変感心致しました。人は、親、先生、同僚、諸先輩の応援があつてこそ社会にでて頑張ることができると思います。最後に参加された4人の生徒さんが残りの高校生活を有意義に過ごされますよう祈っております。

建築部 永留 敏泰、渡辺 高章、伊藤 純二
土木部 奥田 哲也、澤田 弘明、岡田 隆史



インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 青池 真理

今回、僕はインタ-ンシップで株式会社七番組に8月4日から8月6日までの3日間お世話になりました。そこでは学校では体験できない貴重な経験をさせてもらいました。例えば、一般の人では入る事が出来ない工事現場に入ったこと、建設会社(七番組)の中に入ったこと、よく見る工事現場の仮設の事務所の中に入ったことです。そのような場所に高校生の自分が行けたことがとても嬉しかったです。その他に、楽しくて嬉しくて貴重な体験が僅かでしたがありました。それは広い範囲の現場での測量です。学校では測点も少なく狭い範囲でした。レベルが違っていました。それに野帳の書き方が学校とは違って、かなりとまどいました。その時、これが現場で測量のプロが書く書き方なんだと大きな発見をしました。だけどプロのやり方では出来なかったため、学校の実習の時間に教えてもらったやり方でやったら、担当者にお褒めの言葉をいただきとても嬉しかったです。その後、計算をしたらだいぶ間違えていて悔しかったです。新学期、測量の授業が始まったら、一生懸命取組み技術を身につけたいです。



その他には鉄筋を結束する作業にも参加しました。人や車が通る大事な場所なのに、素人の僕がやって失敗したらどうしようという不安になりました。だけど現場の人が快く『やっていいよ。』と言ってくれて、やり方やコツまでも教えてくれました。プロの人のようになかなか上手には出来ませんでした。練習をしていくうちに上手できるようになりました。僕が事務所の中でも縛る練習をしていたら、ハッパと結束線をくれました。ものすごく嬉しかったです。有り難うございました。

僕は小学2年生から土木の仕事に憧れていたため、今回の体験は将来の自分にきつとつながると思います。お忙しい中貴重な時間を設けていただき本当に有り難うございました。とても感謝しています。

インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 田中 翔穂

今回のインタ-ンシップで、僕は七番組という、とても大きな会社に行かせてもらいました。

一日目は、中部国際空港(セントレア)周辺の工事現場で測量をさせてもらいました。測量は普段から学校の実習でやっていたので、正直なところ楽勝だと思っていました。でも、日光ですごく熱くなったアスファルト道路の上での測量は、陽炎が立っていて大変でした。

二日目はJFEの敷地内に入って鉄筋の骨組作業を見学させていただきました。鉄筋屋の人達が所定の位置に置いていった鉄筋を固定する結束の作業をやらせてもらいました。なかなか上手く出来ず、担当者の方に渋い顔をさせてしまいました。学校では体験できないことをやらせてもらって良かったです。



三日目は、インタ-ンシップの僕達に任せられる仕事はない現場だったので、午前中は担当者の方達に仕事についての話を聞きました。午後からは光波測量のやり方を教えてもらいました。次に、翌日が小型車両の講習会だったこともあって、削岩機のアイオンに乗って、操作方法を教えてもらいました。光波は、そのうち学校でもやるだろうけど、アイオンに乗ることはもう無いと思うので、とても貴重な体験をさせていただきました。

どの現場で働いている人も、みんな楽しそうに仕事をしているのが印象的でした。将来、僕は公務員になることを目指していますが、実際に現場で働く楽しさを教わった様な気がします。三日間大変お世話になりました。有り難うございました。

僕は七番組へ就業体験に行きました。一日目は日本ガイシ内の現場でした。その現場では、着いて直ぐに会社内での注意事項等のビデオを見ましたが、そんなことをするとは思っていませんでした。現場はとても暑く、作業は大変でした。しかし現場の職人さん達は、そんな中でも空き時間があると周りの掃除をして常に綺麗な環境で作業をしていました。二日目は、研修現場が変わり名古屋市内のメイツ泉新築工事現場に行きました。ここでは主に、現在どのような工事を行っているのかを現場監督の人に教えてもらいながら見学しました。ここでの作業は熱中症などにならないように割とこまめに休憩がありました。作業の途中で鉄筋が運ばれてきて、それを地上から十階以上も上の高さまで持ち上げている所を見て凄いなと思いました。また、その作業では各部屋に傷が付かないように鉄筋のぶつかりそうな所には発砲スチロールが被せてあり、細かいところまで気を使っている事に驚きました。三日目は半田のこども園建設工事現場に行きました。現場には何もなくて殺風景だったけど、昼頃には凄く大きな重機などが入ってきたり、トラックが杭を持ってきたりしました。その日は杭を打つ作業はなくて見るだけでよかったけれど、あれ程でかい電柱見たいなものを地面に打つのは凄いなと思いました。この現場も、一日目や二日目と同じで現場をいつも綺麗にして安全に気を付けて作業をしていました。僕も建築現場で働くようになったら安全等に気を付けて仕事をしていきたいと思いました。この三日間の研修では学校生活では目にするのでできない多くの事を見たり、体験することができました。この経験を生かしてこれからの学校生活を充実したものにしたいと思います。



インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 西下 彰

最初にインターンシップの話聞いた時、不安しか僕の頭の中にはありませんでした。話を聞いた当初は、「考えておきます」と曖昧な返事で済ませていましたが、夏休みも近づき担任から確認の話があった時、僕はその事をすっかり忘れていました。既に七番組へ行くことが決まっていたので、良い機会と思い行くことに決めました。その後、七番組の担当者と研修の打ち合わせを行うために七番組へ行った時には会社の雰囲気を楽しむことができました。

一日目は、日本ガイシの敷地内での作業となりました。朝は安全具の説明や現場での注意事項の説明を受けました。それから現場を見学し、軽作業をさせていただきました。午後からは軽作業を行いつつ、現場での注意点を考えてみると言われ、思いつくものを書いていました。重機との接触事故や落下防止などを思いましたが、この時期に一番気を付けなければならないことは、熱中症でした。現場にはスポットクーラー等の対策はありましたが、僕はまだ少し不十分な気がしました。そうして不安だらけだった一日目が終わりました。

二日目は、名古屋のマンションの建設現場でした。午前中は現場の説明と現場監督の仕事等を教えていただきました。午後からは、モデルルームの見学と監督さんの仕事を見たり掃除をしました。監督さんの仕事を見ていて僕の中にあった現場監督のイメージが大きく変わりました。それは職人さんにはお願いをして作業をしていただく立場にあり、全体の調和を大事にして、作業がしやすいように掃除までしている姿を目の当たりにしたからです。僕はそんな仕事ぶりに感心させられました。

三日目は、半田市のこども園建設現場でした。八時に朝礼が始まり、現場の説明を受けました。説明を受けると次々に重機が入ってきて作業を行う準備が始まりました。僕は杭を打つ目印となる番号札を貼ったり、掃除をしたりして三日目も終わってしまいました。

僕はこの三日間を通して、現場においてはまずコミュニケーションと掃除が大切だと思いました。また、三か所の現場を回ってみてみんなが緊張感を持って作業を行い、お互いに危険なところを注意し合ってギクシャクすることのないような現場づくりをしているところに強く惹かれました。これは建築現場に限らずどこにでも言えることだと思います。

僕は今回の研修では、普段見聞きできないことを知ることができ、人生で一生役立てて行きたいと思う研修でした。



インターンシップを受けて

今回のインターンシップの引き受けは、会社では初めてのことであり、私自身もアルバイトでない高校生の彼らに三日間も何をしてあげれば良いのか正直戸惑っていました。

そんな私の思いとは違い、彼らは夏の暑い日差しの中、学校では教えてもらえない現場での仕事を一生懸命頑張っている姿が目にとまりました。

そんな彼らとの会話の中で、高校を卒業したら何処に就職したいのかと尋ねると、工場勤務かなと言っていました。てっきり私は、建設会社に就職希望だと思っていました。話を聞いてみると、土木科の卒業生でも建設会社に就職するのは一人か二人だと言っていました。そんな私も土木科の卒業生であり、この三日間で土木という現場での仕事の楽しさ、やりがいと言うものを教えてあげられたらという思いで接していきました。

そしてあっという間に三日が過ぎ、最後にもう一度同じ質問をしてみたら、土木系の仕事もやってみたいと言ってくれました。今回のインターンシップの経験を生かし頑張ってください。



インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 伊藤 一希

僕は8月18日から20日まで、インタ-ンシップとして、株式会社『大進』さんで三日間現場体験をさせていただきました。

一日目は、朝の早起きに慣れず、寝坊しましたが、時間には何とか間に合って大進に着きました。恥ずかしいような気持ちがあり、最初は大進の方々となかなか溶け込めませんでした。現場は東浦にあり、家の基礎を作る仕事でした。外の仕事なので、とても暑く、汗だくで大変でした。道具を運んだり、モルタルを塗ったりしました。一日目は初めてばかりの仕事で、とても疲れました。



二日目の朝も、なかなか起きられず辛かったです。でも大進の方々とは少しづつ話せるようになってきました。この日も大変暑く、炎天下で毎日仕事を頑張っている人達は、すごいなと思いました。この日は擁壁の埋め戻しやバックホ-にワイヤを掛ける仕事をしました。少しづつ仕事にも慣れてきましたが、やっぱり疲れました。

三日目は最後の日ということなのか、時間にキチンと起きることが出来ました。多くの人とも色々なことを話せるようになりました。この日も東浦の現場で、埋め戻しと老人ホ-ムの広場の地均しをしました。地均しの時に初めてランマをやらせてもらい、とても嬉しかったです。暑さにも慣れてきて、だらけることもなくしっかり働くことが出来ました。夏の現場はきついと聞いていましたが、体験したらやっぱり想像以上にきつかったです。

将来、家族を養い、生きていくためには働いてお金をもらわなきゃなりません。お金を稼ぐことは簡単なことではないとつくづく思いました。でも僕は将来、就職するなら暑くても辛くても、現場仕事がいいなと実感しました。とても良い体験をさせていただきました。有り難うございました。残りの学校での勉強をしっかり頑張りたいです。

インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 山本 満

僕はインタ-ンシップで8月18日から20日までの三日間、株式会社大進に行きました。行く前は会社の人とちゃんとコミュニケーションが取れるか、どんな仕事をやるのか、ちゃんとできるだろうかとたくさん心配がありました。でも大進の方はとても優しく、すぐに馴染むことが出来てとても良かったです。



僕は、土木という仕事はそんなに細かい仕事じゃないと思っていました。でも大進の方は図面からいろいろ読み取り、計算して丁張などを作って、とてもカッコ良く見えました。僕が行った現場には、現場事務所があり、そこではパソコンも使っていて、土木でもパソコンを使うのかと思いました。

仕事は土のうを作ったり、バリケ-ドを撤去したりしました。ダンプで石や木の根を捨てに行ったり、単管を運んだりしました。現場はもちろん外で、冬はとても寒そうで、夏は予想していたよりも暑くて、大変な仕事だと感じました。でも、土木の仕事で作ったものは一生記念に残るし、とてもやりがいのある仕事だと思います。今の土木の仕事は、機械ばかりかと思っていたけど、意外と機械を使わない所も多く大変そうでした。

僕は、この三日間のインタ-ンシップの体験で、働くことはとても大変なことだと実感しました。将来、僕は土木関係の仕事に就きたいと思っていますが、とてもいい経験になりました。このような素晴らしい経験が出来て、とても感謝しています。お世話になった大進の方々、有り難うございました。

インターンシップを受け入れて

今回、半田工業高校の土木科2名、建築科1名の計3名の生徒さんに左官工事の現場実習をして頂きました。3名共朝早くの集合時間に遅れず、また3日間休む事無く、指示された仕事を丁寧に且つ真剣に取り組んでおりました。

建設業の現況は非常に厳しく、1年を通して順調に仕事を受注できない状況に有ります。今回は実習に適した現場が近くに有り、実習をスムーズに実行する事ができました。また、心配しておりました怪我も無く、無事終了できましたこと事を幸いに思います。

昔は「手に職をつければ食いつ逸れはない」と申しましたが、今はそうは言っておられない世の中になっております。インターンシップを通じて左官という仕事を体験した事を参考にして、今後の就職に役立てていただければと思います。せっかく建築科や土木科に進学されたのですから、建築や土木に関連した職業に就職していただく事を望んでおります。

今後またインターンシップの機会が有りましたら受け入れをして、なるべく多くの生徒さんに現場実習をしていただきたいと思います。

インターンシップ感想文

土木科 2年 榊原 弘士

僕は7月27日から29日までの3日間、青和業務店で就業体験をしました。参加理由は、曾祖父が大工の棟梁で、今自分が住んでいる家を左官の人にも手伝ってもらって作ったということを知り、実際に左官の仕事を経験したいと思ったからです。

今回は、主に壁にモルタルをコテを使って塗る作業をしました。初日の作業では、コテの持ち方や使い方が分からなくて、何度も教えてもらいました。緊張していたためか肩に力が入り過ぎてコテを持つ手が震えてきてしまいました。初めて知ることが沢山ありました。二日目は、廊下とテラスのコンクリート用型枠作りでした。説明を良く聞いて理解しないと出来ない作業でした。何度も失敗を繰り返してご迷惑をお掛けしました。でも与えられた仕事には一生懸命取り組んだつもりです。午後は担任の森川先生、監督さんと一緒に4階まで上がり、他の業者さんの作業現場を見学しました。その日は曇りだったので、それほどでもなかったけど夏の晴れの日の室内作業は大変ですと監督さんが言っていました。三日目の作業は壁の下地塗りでした。初日の事を思い出しながら取り組みましたが、まだ慣れていないところが沢山ありました。作業中に言われた『コテの適切な角度を見つけるまで、仕事は勉強と一緒に。』と言われた言葉がすごく心に響きました。午後からの作業は二階のコンクリート用型枠外しでした。二日目に作った型枠と同じ形で、自分たちが作った型枠がこのように役立つと思うと嬉しくなりました。

就業体験では、大変なことも沢山ありましたが、自分がやったことが少しでも役だったのが嬉しかったです。また本当の職人技を見せてもらいました。教えてもらったことは素晴らしい経験となりました。三日間お世話になりました。有り難うございました。



インターンシップ感想文

土木科 2年 榎原 勇輝

今回のインターンシップで、僕は青和業務店さんに職場体験をさせてもらいました。初めてだったので、とても緊張しました。でも学校では経験できない貴重な体験をさせてもらい良い勉強になりました。

一日目は、最初なので緊張しながらも、説明を聞いた後、コンクリートの補修をしました。コテの使い方や持ち方が分からなかったけど、世話をしてくれた近藤さんが、分かりやすく教えてくれました。初めてモルタルで壁を塗りました。今回は見学ではなく、実際にやる仕事が多くとても勉強になりました。初めて聞く言葉や、初めて経験することばかりでした。



二日目は階段の壁塗りをしました。一日目と同じ内容でしたが、斜めの所があり、塗るのに苦労しました。脚立を使って足場板をまたがせ、その上で作業をしました。最初、足場のグラグラが気になりましたが、やっているうちに慣れてきて、安定して作業が出来るようになりました。その時は、近藤さんと二人でやりながら、左官のことも教えてもらいました。二日目なので、それほど緊張せず話すことが出来、良かったです。

三日目は、朝から今までとは違う仕事をしました。一階のフェンスを立てるための型枠を作りました。大工さんに作り方を教えてもらいました。物を作るのは好きだったので、集中して作業が出来ました。午後からは、昨日塗ったコンクリートの上塗りをさせてもらいました。上塗りだけあって、とても集中して丁寧にやっていました。

三日間という短い職場体験だったけど、貴重なことをやらせてもらって、とても感謝しています。充実した時間を過ごすことが出来ました。お世話になった青和業務店の皆様有り難うございました。この体験をこれからの就職や仕事に活かしていきたいと思います。

インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 竹内 裕也

突然、担任の先生からインターンシップに行ってみない?と言われて、初めは何のことだか分かりませんでした。職場体験みたいな感じと言われてようやく理解することができました。初めは二人でやる予定でしたが、一人は体調面で行けなくなったらしく僕一人で行くことになりました。一人で社会の人達と一緒に働くと思うと凄く緊張しました。そして夏休み前にインターンシップの打ち合わせに行きました。社長さんの第一印象は少し怖そうだなと思いました。でも話してみるととても優しい人で、少し安心しました。そして実習当日を迎え、会社へ行きました。朝の六時半集合と聞いて、「そんなに朝早いんだなぁ」と驚きました。朝は社長さんが駅まで迎えに来てくれました。それから直接現場へ向かい、現場について初めに行ったのは全員でラジオ体操でした。その後、早速作業に入りました。僕は左官屋と聞いていても正直どんなことをするのか分かりませんでした。でも職人の人達が優しく教えてくれて、とても楽しかったです。そして作業は五時半に終わって家に帰りました。それまでは気にもならなかったのですが、家に返った途端に疲れがどっときて直ぐに寝てしまいました。二日目も昨日と同じ事をしました。セメントを混ぜたり壁にモルタルを塗ったりしました。しかし職人さんの技の様には行かなくて考えさせられました。三日目には自分なりに凄く上手く塗れるようになって嬉しかったです。本当に楽しい三日間の実習でした。またこのような機会があれば行きたいと思いました。三日間の実習では大変お世話になりました。ありがとうございました。



現場実習(就業体験)の実施について

今年度は7月27・28・29日の3日間半田工業高等学校の生徒2名を迎え、現場実習を行いました。毎年暑い時期の現場ですが2名ともよく頑張ってくれました。

実際に行っている現場の作業は、学校の授業とは異なる部分が多くありますが、基本をしっかりと学習しておけば、社会に出てから必ず役に立つと思います。

今年は、準備工の現場が多く実際の施工状況の実習は少なくなり残念でした。

これからも実習などを通して皆さんのご意見をお聞きし、作業現場での参考にしたいと思います。

竹内 勉



インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 仙敷 直哉

今回のインタ-ンシップで、僕は株式会社清久建設さんで職場体験をさせてもらいました。始めはとても緊張しましたが、貴重な体験をしました。

三日間とも雨が降ってしまいましたが、いろいろな体験をさせてもらいました。一日目は、浄化センターでマンホ-ルの修繕工事を見学し、少しでも砂の運搬を手伝いました。

特に印象に残っているのは、最終日にやった測量です。道路でやるのは初めてだったから、焦ってとても時間がかかってしまいました。現場の人はすぐに据え付けていたので、すごいと思いました。途中で雨が降ってきて中断したけど、午後から晴れて、また出来たので良かったです。雨が降ると、土木の仕事が出来なくなるともよく分かりました。これからは、学校の授業をしっかり受けて、ちゃんと練習して仕事でも出来るようにしたいと思いました。他にCADの練習もしました。学校では経験できない現場の仕事のやり方を学ぶことが出来たと思います。工場見学もしました。コンクリ-ト工場やアスファルトプラントを見学しました。コンクリ-ト工場では作り方やできあがった製品を見て教えてもらいました。アスファルトプラントでは作り方をらせてもらい、強度の試験を見学しました。

この三日間のインタ-ンシップでは、学校では経験できない仕事の雰囲気味わうことが出来ました。三日間とも雨が降ってしまったけど、貴重で充実した時間を過ごすことが出来ました。この経験をこれからの就職、仕事に役立てていきたいです。職場体験をさせてくれた清久建設さんには、とても感謝しています。貴重な体験を本当にありがとうございました。



インタ-ンシップ感想文

土木科 2年 新美 佑太

今回のインタ-ンシップでは、とても貴重な体験をさせてもらいました。この体験が無かったら、仕事がどういうもので、どれだけ大変かも知らずに就職したと思います。そうすれば、きっと長続きしなかったと思います。とても自分のためになりました。

今回、僕が三日間お世話になったのは清久建設さんです。マンホ-ルの嵩上げ作業、CAD、測量、水処理施設工事とアスファルト工事の見学などをしました。

マンホ-ル嵩上げ工事では、砂運びを手伝いました。自分から積極的に手伝おうと思っていましたが、何をしたらいいかわからず、あまり役に立ちませんでした。今、一番心に残っているのは測量です。始めはやり方が良く分からず大変でした。しかし、社員の方が優しく教えてくれたので、すぐに覚えることが出来、据え付け、読み取りも早く出来るようになりました。実際に会社の人達がやる仕事を僕達がやったので、大変緊張しました。間違っていたらどうしようか、迷惑が掛からないだろうかと心配しました。

今回のインタ-ンシップでは、いろんな所の見学もさせてもらいました。どんな仕事をしているかが良く分かりました。アスファルト工場の見学では、アスファルトが出来るまでや強さの実験を見せてもらいました。普通では見る事の出来ない所が見学出来て、とても良かったです。雨が多く大変でしたが、とても内容の濃い三日間でした。有り難うございました。



半田工業高校生インターンシップ報告書

7月27～29日の3日間、半田工業高校2年生の磯部亮介さん、福田健斗さんのお二人に「就業体験」をして頂きました。

始めに、弊社社長よりケガのないよう安全面の話しなどをし、50周年を迎えリニューアルしましたパンフレットを見て頂きました。

その中には愛知県では初となるRC造1戸建賃貸住宅の商品(ViVOヴィーヴォ)があり工務部長より工事の概要説明を致しました。

その後、磯部さんには、5月より施工しております乙川駅前マンション新築工事での作業に従事して頂きました。ほかにはあまりない6階建共同住宅のデザイナーズ三角マンションでの工事ですが、土間工事作業状況の中、1日目は地中梁天端コンクリート上清掃、2日目・3日目は土間上スタイロホーム敷きを体験して頂きました。

また福田さんには、4月より施工しております三浦電気(株)新築工事での作業に従事して頂きました。ブロック塀基礎・擁壁埋戻・土間工事作業状況の中、1日目は土間型枠解体、床段差養生の補助、2日目は外構仕上げ墨出し、床養生の補助、3日目は鉄骨仮設ネット外しの補助を体験して頂きました。

あいにく悪天候の中での作業も多く、暑さというより泥まみれになり大変だったかと思えます。

また 現場担当との話しでは学校における学習では木造を主に学んでいるという事で、鉄骨の現場は勉強になる事が多かったのではないかという事です。建築士の資格などに興味をもっておられるようなので、今後更に建築での知識を身に付け、目標を持って頑張って頂きたいと思えます。

総務部 三浦 くるみ



インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 磯部 亮介

私は三日間のインターンシップを沢田工務店で体験してきました。その三日間はずっと雨が降っており、作業するのがとても困難でした。一日目は、まず朝七時三十分からラジオ体操をやり、今日の作業内容と注意事項を一人ずつ確認を取っていました。これは毎日やっているらしく、その後から作業に取りかかりました。



一日目の自分の作業は土台の上に乗っている泥を掻き出す作業でした。それはまさしく雑用だったのですが、これも仕事の一つと思って真剣に取り組みました。この作業が意外にキツク、腕と腰にかなりきました。

二日目は、建物に断熱材をガムテープで張っていく作業をさせてもらいました。この作業は興味深く楽しんで行うことができました。

三日目は、殆どが危険な作業で、自分はあまり作業させてもらえませんでした。しかし、雨が止んできたら、また周りが泥だらけだったので、泥掻きをやりました。

この三日間の体験を通して仕事は大変だと言うことを改めて感じました。しかし、その大変な中にも作業を楽しむことができ、やり甲斐を感じる事ができました。また、自分自身の成長も感じる事ができました。私は、この経験を生かしてこれからの学校生活を充実したものとし、将来の進路選択に活かしたいと思っています。また、体験中の三日間は沢田工務店の監督さんや職人さん方には大変お世話になりました。ありがとうございました。

インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 福田 健斗

今回のインターンシップには正直なところ行きたくありませんでした。何故なら折角の高校2年生の夏休みを無駄にしてしまうと思ったからです。しかし、先生に勧められて行くことにしました。初日はとても緊張して、始まる前から色々な事を考え、色々な事をイメージしていました。いざ現場へ行ってみると、そこは普段外から何気なく見ているものとは全然違いました。赤茶の鉄骨や何に使ったか分からない木材など見るもの全てが新鮮で、とても興味深いものでした。



初日の作業は木材の解体作業でした。その作業を本校卒業の先輩と一緒に行いました。その作業中に色々な話をして親しくなる事ができました。そしてあっという間に一日が終わりました。

二日目は、駅まで迎えに来てもらい、現場に行きながら今日の作業の流れや作業内容を教えてもらいました。作業の確認やこのようなコミュニケーションはとても大切だと思いました。二日目の作業は境界線の埋め合わせ作業で、とても力がある作業でした。でも、その際、初日と同じように先輩が手伝ってくれたのでとても早く作業が終わり、助かりました。

三日目も二日目と同じように作業を行いました。現場監督は、現場で職人さん達に作業の指示をするだけではなく、安全に作業ができるように危険表示をするなど、現場の環境づくりも現場監督の大切な仕事だと思いました。

今回のインターンシップを通して一番思ったことは、仕事を選ぶには収入や仕事内容も大切だけど、働く環境や人間関係はもっと大切だと言うことを感じました。この経験を活かして将来の進路選択を行いたいと思います。

高校生による現場実習(インターンシップ)に関して

今回インターンシップに来る半田工業高校2年生(女性)の生徒に、まず初めに質問をしました。

「何故設計事務所に就職したいのか?」と聞いたところ「最近自宅を新築した際に自分でもプランを考え
た時、楽しかったから」との事でした。

しかし高校の先生に、高校2年生の授業内容を聞いたところ、プランを考え、設計する時間やパソコン
(CAD)の授業などがかなり少ないとの事でした。

これでは、いくら設計に興味があっても、もう少し実務的な授業を行わないとインターンシップに来ても
参考にならないのではないかと思います。

そういった情報などを含め、設計に関して言うなら、実施設計に関する授業時間をもう少し増やすこと
又今回のインターンシップの時期では生徒がまだ、設計に関して深く、興味を持つに至っていないと思わ
れる事が問題としました。

しかし、来た生徒はとても積極的で期間がもう少し長ければ、より実務的な事を教える事が出来たと
思います。

全体的にインターンシップの主旨は十分理解でき、生徒にとっても貴重な経験になったと思います。



インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 藤井 千保子

私は住宅の設計をすることが好きなので、設計事務所とはどんな所なのか詳しく知りたかったので興和建築設計事務所へのインターンシップを希望しました。3日間の実習では、オートキャドをやらせてもらいました。まずガイドに沿って図面を入力し、それが完成すると次は自宅の図面を入力しました。私の中では、設計事務所とは建物を黙々と設計しているというイメージでしたが、実際には設計だけでなく耐震診断や監理などと幅広く仕事をしていました。また、所員の人達のあいさつや電話に対応している時の声が大きくはきはきしていて気持ち良かったので、私もそんな声が出るようにならなければいけないと思いました。興和建築設計事務所では六段活用というものがあって「意識を持っていればやりたいという態度に出て、更に態度だけではなく行動も起こすこと、それを習慣にすることで運命が変わり、人生も変わっていく」ということを教えていただきました。私の設計をやりたいと言う小さな意識が、私の人生という大きなものまでも変えてくれると言うことに感動しました。また、雑誌や新聞を読むことや、メモをとる事がとても大切だということも教えていただきました。



今回の体験では、設計事務所への興味を更に持つことができたので設計をやりたいという意識をしっかりと持ち、設計事務所への就職を目標に、大きな声を出すことや雑誌・新聞を読むこと、メモをとることなど教えていただいたことを意識していこうと思います。また、今はほとんどCADで図面を描くので、高校生活でしかできない手描きの製図を思いっきりやって悔いの残らないようにしようと思っています。3日間ありがとうございました。

感想

今回初めて工業高校の生徒の受け入れを行いました。本人たちが目標・目的をしっかり持って体験に来ましたのでとても充実したインターンシップ(現場実習)ができました。

毎年中学生が数名体験学習に来ますのでそのプログラムを高校生向けにアレンジし、3日間を有効に過ごせるようにしました。特に大工体験だけではなく社会にでてから必要な心構えや地球環境など。そして、ただ大工として家を作るのではなく、それ以外に多くの知識や経験が必要となり「夢」を持って仕事に取り組むことの大切さを伝えました。

3名とも多くのことに興味を持ち、とても熱心に見たり聞いたりしていました。特に現場での作業では先輩に話を聞きながら釘打ち等を行っていました。そして、ミニプランター作りにおきましては一言も言わず一生懸命作っていました。思いのほかむつかしかった様子でしたが自分オリジナルの逸品ができたと思います。

ものづくりの楽しさや難しさ、そして将来の「夢」を感じていただけたと思います。

藤井 良秀

インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 飯田 宜功

この体験をしてみてまず思ったことは、自分の考えていた大工と現実の大工は違ったことです。その理由は色々ありますが、その中でも一番心に残ったのは、「家は建てるものではなく造るもの」と教えられたことで昔から受け継がれてきた伝統的な大工の技術は、今ではあまり使わなくても家を建てることができると聞いて少しショックを受けました。しかし、技術だけではなく様々なものがどんどん変わっていく今でも、変わらないものがあるということと同時に思いました。それは相手を思いやる気持です。どんな時でも相手のことを考えて仕事に没頭する職人さん達を見てとてもそう感じました。それは自分の造りたい家を自由気ままに造るのではなく住む人のことを考えて造っていることを改めて感じました。また、家を建てていく中で、その土地土地によって違う気象や環境がありそれに適した家を考えていくという大切なこともこの体験で知ることができました。私の周りには色々な家を見る機会が沢山あるのでそういった事も考えつつ見てみたいと思います。この三日間をこういった現場などで過ごしてみて、どんなことにも言えると思いますが、「工夫する」と言うことがとても大切だと思います。好きなことを考えるのと同じように、相手の気持ちを考えて他にはないものを考えると言う過程も物作りと言えるのではないかと思います。建築物を造るにあたって環境や気候、ゴミへの配慮などが密接な関係にあると感じました。将来建築関係の仕事をするならば、今まで述べてきたことを目標に頑張っていきたいと思います。三日間とても良い体験でした。ありがとうございました。



インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 家田 柁也

今回このインターンシップで大秀組を職場体験してきました。そこでは色々な事を体験したり、今までに見た事もない物を見たりして、3日間ではとても足りないと思うほどの貴重な体験をしました。

まず一日目は、事務所で色々な説明を聞きました。社長さんは作る家にこだわりがありそれを貫いているそうです。そのこだわりとは、常滑市の環境下でなら誰にも負けないと言うものでした。それはただ同じ形の家を何戸も作るような事ではなく、海の近くだったら強い潮風だとか、中部国際空港の周辺だったら騒音の影響を受けるだとか、そういった場所による環境の変化に対応して共生していくと言う事だそうです。僕はこの言葉に強く打たれ、「建築」についての考え方を改めるほど深く感動しました。その後は、現場を見学して色々教えてもらったり、製図について学び、脚立のペンキ塗りなど、様々な作業をさせてもらいました。社長さんは僕達に幅広い作業を経験させ、大工は家を造るだけではないと言うことを教えてくれました。



二日目は現場で作業をしました。主に機械を使った釘打ち作業をしました。また、現場を見学しているとガラス製の瓦を発見しました。普段、目にする物ではないので社長さんに聞いてみると、それは天窗のような物だと説明してくれました。天窗は普通の窓に比べ光の面積が三倍大きいそうです。また何故瓦なのかとも聞くと、窓は光を直線的に入れてしまいが、ガラス瓦は放射的に優しい光が入ってくるからと言っていました。更に、夜でも昼の外にいるような一室を演出できるそうです。しかし、この瓦を配置するには台風の通り道を想定し、その流れに沿うように置かないと駄目らしく、使い方もしっかりとした知識が必要だと言うことを教えてくれました。

今回このような体験を通して、建築はとても奥が深いと思いました。住む人との関わりや地域の環境を知る事が建築にとってとても重要だと言うことも分かりました。

インターンシップを通して学んだこと

建築科 2年 小坂 悟生

今回のインターンシップでは常滑市にある大秀組さんのところでお世話になりました。そこでは三日間の貴重な体験をさせていただきました。目にするもの全てが初めてなことで、戸惑うことばかりでした。また、大工さん達は朝早くから夕方にかけて黙々と仕事をされていたのを覚えています。

そんな中で私が感じたものがいくつかあります。まず一つ目は、初日の色塗りのときのことです。一枚の立面図が書いてある紙に色を塗ってみよう、とのことで深く考えずにペタ塗りという形で色を塗っていました。塗り終えて社長さんに見せたら一つ教えていただけました。それは、ただ単に色を塗るのではなく明暗をつけて遠近感をだす様に塗るということでした。その時私は、ある一つのことを言われたらそれ以上のことを考え、実行しなければいけないと思いました。



二日目では現場の方へ連れて行ってもらい大工の方たちと一緒に作業をさせていただきました。現場に入ったときはその場の空気にのまれてしまい釘打ちの仕事を言われても体が上手く動かず失敗もしてしまいました。しかし、その作業に慣れ始めると少し速く作業ができるようになり「今憧れの大工の方たちと一緒に仕事場で時間を過ごしているのだ」という余計な事まで考えられるくらいゆとりを持てるようになり、掃除までもが楽しい時間でした。三日間の中でこの時間が一番自分の為になり感動の連続でした。作業しているところを間近で見られ、大工さん達の会話も聞けて、「大工ってこういう仕事なんだ、家を建てるってこういうことを言うんだ」と実感しました。

この体験を通して人との関わり合いの大切さと共に仕事の大変さも学びました。そして自らの夢への意欲がさらに高まりました。またそれと同時に、その夢への不安も積もりました。しかし大変ということは、それだけやりがいがあるということです。自分もその一員になれるようこれから精一杯努力しなければいけないと思いました。

高校生現場実習を終えて

あいにくの雨模様の中、德里君には2日間の現場実習を体験してもらいました。例年では、梅雨も明け、猛暑の中の実習となると思いますが今回は2日間とも梅雨空が広がり実際に現場稼働作業は丸1日もありませんでした。

現場の工事としては、国道23号豊橋バイパスの新設工事で、下部工を8基と既設の側道を整備する工事です。

実習に参加した德里君の第一印象はおとなしそうな感じでした。しかし、実際に会話を交わすうちによく質問をしてきてくれ積極的だという印象に変わりました。実際に現場に出て、レベルと光波を使用し測量を行いました。高校の授業でトランシットを使用しているとのことでアドバイス無しで据えてもらいました。なかなか据えられず悔しがり、どうしたら据えられるのかと積極的に聞いてきました。アドバイスをを行うと、据えることができ、次に来た質問が「どうしたらもっと早く据える事が出来るのか。」という事でした。とても積極的に向上心があるなと思い自分も改めて考えさせられました。

德里君にせっかくの夏休みなのに何故現場実習に参加したのかと聞いてみると、高校を卒業して建設業に携わりたいため、今のうちに実際の現場で実習を行いどのような事を行うかを知りたいとの答えをもらいとても開心しました。



平成20年度 23号豊橋BP御津高架橋下部工事 現場担当者 杉浦 慎哉

豊橋工業高校 インターンシップを終えて

7月27日、28日の計2日間。豊橋工業高校 土木学科2年生の山田弘太君がインターンシップに来ました。自分はインターンシップに高校生を迎えるのは去年に引き続き2回目です。

山田君は平成4年生まれの自分より8才年下の16才でした。数年前まで自分も学生だったのに、山田君が初々しく見えて、輝いていました。当現場の工事は平成20年度23号豊橋BP小坂井道路建設工事。盛土が大半を占める工事で、7月27日の初日はあいにくの雨。カッパを着ての作業となってしまいました。

盛土作業が中止になってしまい残念そうでしたが、午後からは天候が少し回復し、曇り。翌日の測量を前倒しで行いました。山田君との測量でお互いに確認しあっている作業の中、山田君の測量のレベルの高さに驚きました。平坦な場所に機械を据えるのに5分。斜面に据えるのに10分程度。初めて自分が据えた時の半分くらいの速さでした。

土木が好きで土木科に入り、将来は土木の仕事がしたいと将来の目標も話してくれました。初めは緊張していたみたいで、なかなか話ができなかった様だが、次第に慣れてきて趣味のサッカーの話も聞くこともできました。翌日の7月28日は曇り。作業を行なうことができたこの日は、補強土壁の基礎の床掘り、基礎砕石、基礎コンクリートの型枠の施工。重機での作業を面白そうに見学していました。重機に近づかないように注意をはらいながら、写真を撮ったり、出来形を測定したりの1日となりました。

山田君の積極的な作業に対する姿勢や、メモや質問をしたりする姿勢を見ていると、自分も初心に戻り、気持ちを引き締め直すきっかけになったと思います。インターンシップを受け入れる経験をし、自分の成長にもつながった気がして、山田君も土木に少しでも興味が増すきっかけになってくれればと思います。山田君のこれからに期待したいと思います。

以上

平成20年度 23号豊橋BP小坂井道路建設工事 土木部 鈴木 謙介

インターンシップを体験して

土木科 2年 德里 大智

僕は、7月27日と28日に23号豊橋バイパス御津高架橋下部工事現場でインターンシップに参加しました。

初日の朝、豊橋駅で先生と待ち合わせをし、会社に行きました。会社に着くと担当の方と写真を撮りました。その後、担当の方と一緒に会社の車で現場事務所に向かいました。事務所に荷物を置いた後、現場を見に行きました。当日は雨が降っていて盛土作業ができそうもなかったため、他の現場を見学させてもらいました。

午後からは、雨もやんできたので作業の進み具合話し合いに使う写真を撮りに行きました。幸いにも雨が上がったのでトータルステーションで距離を測らせてもらいましたが、とても難しく感じました。

2日目は、大型建設機械を使って本格的に作業をしました。朝から工事をを行い、9時半位には市役所の人に来て、工事道路の寸法を調べに来ていました。

僕は、現場で工事を見学してから、トータルステーションのすえつけを行いました。担当の方がコツを教えてくれてとてもわかりやすかったです。そのおかげで昨日よりも速くすえつけができました。

途中から雨が降ってきて作業が中止になったため、担当者の方が「貴重な体験だから」と言って建設機械に乗せてくれました。機械の上からは見えない所がとても多く機械を安全に動かすには注意がとても必要だと思いました。

インターンシップを通じて、会社の皆さんがとても優しく嬉しかったです。ありがとうございました。



インターンシップを体験して

土木科 2年 山田 弘太

僕は、7月27日と28日にインターンシップを体験させていただきました。

当日の朝、現場に到着すると下請けの建設会社の方がいました。朝礼が始まり、今日の作業内容、安全確認などを行いました。「安全第一」と書かれた大きな看板が目につきました。工事現場では、大きな重機や多くの人が動いており、注意をしていないとどんな事故が起こるかわかりません。「安全第一」というこの言葉がすごく大事なことだと思いました。

僕がこのインターンシップで最初に教えてもらったことは、トータルステーションのすえつけでした。学校では、平らな地面でのすえつけしかしたことがなく、のり面でのすえつけは初めてでした。斜面の土が崩れたりしてなかなか水平にできませんでした。困っているとき、世話役の方に普段現場でやっているやり方を教えていただきとても勉強になりました。次に逆放射トラバース測量を教えてもらいました。この測量は、トータルステーションで既知点を視準してゼロセットを行い、求点を視準します。これは方向角を求めるために行います。

今回、体験させていただいた現場は「23号豊橋バイパス小坂井インター」の工事でした。バイパスが出来ると、今まで約1時間50分かかっていた豊橋・名古屋間が50分短縮され1時間になります。そして、中部国際空港等へのアクセス道路として物流を支援できます。また、東名高速道路と連結し、周辺都市との地域連携を支援できます。僕はこの話を聞いて、「将来、土木の仕事ができればいいな」と思いました。そして、「あれは、私が造った」といえるような土木の仕事に誇りを持てるような仕事人になろうと思います。ありがとうございました。



インターンシップを終えて

8月3日・4日の2日間、今年も豊橋工業高校の神谷さんと廣田さんに職場体験をしてもらいました。2人ともとても礼儀正しく、自分の夢をしっかり持った生徒さんで、関心するばかりでした。

1日目は、設計の仕事の体験として、2LDKの間取りをプラン、CADで仕上げる作業をしてもらいました。必要条件を満たして、さらに住みやすい間取りのプランは、パズルのような感じなので、2人ともかなり悩みながら、でも、とても熱心に取り組んでくれました。CADを数回しか使ったことがないとは思えないほどの上達ぶりで、時間内にしっかり仕上げる事が出来、こちらがびっくりしました。

2日目は、現場を体験してもらいました。猛暑の中での体験となってしまいましたが、配筋のチェックと写真の撮影を、話を聞きながら、熱心にごんばってくれました。実際の材料を見ながら、RCの建物の構造を少し体感してもらいました。その後完成間近の現場で、内装工事を見学しました。ビニールクロスを貼る作業に、とても興味を持って見てくれていました。

2日間を通して、2人とも、仕事の大変さを実感した様子でした。確かに仕事は大変だとは思いますが、それ以上に面白いこともたくさんあります。自分の夢を信じて、頑張してほしいと思います。

田中 麗美



インターンシップ

建築科 2年 神谷 有香

8月の3日、4日と2日間私は花田工務店でインターンシップをやらせてもらいました。不安や緊張もありましたが、前から仕事の雰囲気がある感じが興味があっすぎて楽しみにしていました。

初日は、2LDKの間取り図を自分で考えてエスキスして、その中から1つ選んでCADに起こすという体験をさせてもらいました。間取り図では、最初なかなか案が思いつかず苦戦しました。今建設中の設計図書を見たりして最終的には3つのプランを立てることができました。CADは学校の授業で1回しか扱ったことがなくて思い出すのが大変だったけど、会社の人と話す機会ができて緊張もほぐれたので良かったです。社内には現場や業者との連絡を取り合っていたり、私たちと同じようにCADをやっていたり、会議をしていたり、雰囲気を体験できて良かったです。自分で考えて起こしたCADは2日目に評価されて返ってきました。紙には「レイアウト、動線共にすばらしい!」というコメントと、評価Aをもらいすごくうれしかったです。



2日目は、建設中の現場に行って現場監督の仕事を体験しました。1つ目の現場は豊橋駅の近くで3階建て、1部屋2LDKのアパートに行きました。この時、コンクリートを流し込むための木の枠と鉄筋の骨組みを造る作業をしていました。私たちは、市役所に提出するための資料作成のために、スタッフと黒板を持ち炎天下の中作業をしました。現場の方々は朝から暑く、平気に作業している姿を見てすごいなと思いました。2つ目の現場は愛知大学の近くにある、もう後内装工事だけの完成間近の建物を見学しに行きました。現場で目についたのは部屋ごとに取り付けてある換気扇でした。これは、RC造の建築物には法律で取り付けが義務付けられていると聞きました。分かったことがまた1つ増えてうれしかったです。

今回のインターンシップでは学校で学べないことが学べ、とても良い経験になったので将来に活かしたいと思います。花田工務店さん2日間本当にありがとうございました。

インターンシップ

建築科 2年 廣田 幸恵

8月3日、4日、花田工務店でインターンシップに参加させて頂きました。本物の企業で体験できる期待と不安でいっぱいでしたが、研修が始まれば不安は吹っ飛びました。

初日は自分で考えたマンションの間取りをCADで描きました。CADは授業で少し扱ったことがありますが一から図を起こすので、ほぼ初めての作業と同じでした。一つやっっては分からず、手が止まることを何度も繰り返し、その度に会社の方に教えてもらいなんとか完成させることが出来ました。その図を印刷して、改めて図を見たら、拙い部分もあり、「ここをこうすれば良かった。」など、反省する所が多かったです。



2日目は、現場に向かい、建設途中の建物の見学をしました。組まれた鉄筋の上を歩くのに、最初はバランスをとるだけで精一杯だったのが、午後からは慣れ、ぎこちなかったのが、スタスタ歩けるようになりました。炎天下で立っているだけでも辛いのに作業を黙々とこなす職人の方々の姿は本当に素晴らしいと思いました。

普段見られない部分を見るたび、今まで分からなかったことや知らなかったことをたくさん発見しました。このインターンシップで、どのようにして建物が造られていくかが間近で見学でき、会社の方の丁寧な指導のおかげでとても貴重な体験をすることができました。この体験は私にとってかけがえのないものになるでしょう。インターンシップに参加することができて本当に良かったです。体験を通して出会えた方々、学校の先生方、心より感謝いたします。ありがとうございました。

インターンシップ

去る8月3日4日に初めて設計企画室でインターンシップを受け入れました。

実習に参加していただいたのは愛知県立豊橋工業高等学校 建築学科2年 伊藤大翔さんと河合勇拓さんです。

1日目はCAD(ベクターワークス)にて、簡単な平面図を作成してCADの基本的な使い方を習い、午後からは3次元を立ち上げてパースを作成しました。

2日目は朝、前日に作成した建物の構造計算の流れを説明しましたが、よく分からないようでした。その後、パース図からアニメーションを作成する方法を説明しました。

2人共パソコンには、なれているようでCADの習得は早く、最後まで楽しく取り組めたようです。

今回の経験が将来に役立てていただければ幸いです。

設計企画室 横田 祥治

インターンシップ

建築科 2年 伊藤 大翔

8月3日と4日の2日間、豊田組でインターンシップをやらせていただきました。緊張はしていましたが、作業をやっているうちに自然とほぐれていきました。会社では、2日間ともCADをやらせていただきました。

初日は、まずかんたんにCADの操作方法を教えてくださいました。CAD自体は学校の授業で数回習ってはいたしましたが、学校のものとはぜんぜん違うものだったので慣れるのに少し時間がかかりました。慣れたところで、倉庫の図面を描いてみるようになりました。さまざまなツール・コマンドの使い方を少しずつ教えてもらいながら、なんとか形にする事が出来ました。午後からは、自分で描いた図面を少しずつ加工していき、3Dの図面に仕上げました。3Dの図面では、日の光による影や、照明器具の明るさなどの再現ができてとても勉強になりました。

2日目は、初日に仕上げた倉庫を自分でアレンジしてCADの使い方を感覚的に覚えていきました。休憩のときに、会社の方の描いていた図面を見させていただきました。会社の方の描いた図面はとても多くのことが細かく描かれていたので、すごいなと思いました。最後には、自分の描いた図面を使って簡単なアニメーションを作らせていただきました。

この2日間は、なにもかもがほぼ初めてだったので、とても良い経験になったと思います。インターンシップに参加してよかったと思っています。2日間本当にありがとうございました。

インターンシップ

建築科 2年 河合 勇拓

8月3日と4日の2日間、僕は豊田組でインターンシップをさせていただきました。

僕は、初めて体験する職場という事もあってとても緊張していました。しかし、作業をしているとだんだんその緊張もほぐれてきました。

僕達が体験した作業は、CADで倉庫を設計するというものでした。初日は線を引いたり、さまざまなコマンドを使って倉庫の形をつくりました。僕達の体験させていただいたCADは、平面だけでなく、作った建物を立体的に見ることも出来るものでした。なので使い方を理解する事に多少時間がかかってしまいました。しかし、使い方が解ってくると、やっている作業がとても楽しいものになりました。倉庫の形が出来上がった時に初日の終了時間までまだ少し時間があつたので作った倉庫に、光源をおいたり、色をつけたりして、初日の作業が終わりました。

二日目も、昨日の続きでCADをしました。しかし、別のものを作った訳ではなく、昨日作った倉庫に、階段を付けたりして、アレンジを加えたり、自分の好きなところの画像を保存して、それをつなぎ合わせ、アニメーションを作ったりする作業をしました。僕は、階段をつけて、中二階を作ってみました。そして、7枚ほどの画像をつなぎ合わせ、アニメーションを作ったのですが、このアニメーションを作るのに、2時間以上かかってしまったので、この日の午後の作業は、ほとんど待ち時間になってしまいました。しかし、思った以上のできだったので良かったです。

この2日間で学んだことは学校では学ぶことができないことだと思います。しかし、社会に出てから、必要になることなので、とても良い経験をさせていただいたと思っています。本当にありがとうございました。

インターンシップを終えて

神谷君、中島君、暑い中二日間ご苦労様でした。

最初に、毎年インターンシップに御協力させていただいていますが、今年は景気低迷による工事量の激減で、まとまった現場での就業体験ができなくて申し訳ありませんでした。

一日目は、私の作成した資料に基づき現場監督の仕事の内容と、工事が進むにつれて各工事のチェックポイントや色々な作業に必要な資格について説明させていただきました。鉄骨造の工事写真を見ながら、仕事の内容説明には大変興味を持ってもらえたようです。正しく施工されているか、設計図通りに出来ているか、隠ぺい部分は特に写真で管理することの重要性が理解できたと思います。午後からは、田原市で木造の現場に行きました。学校の授業では、木造建築について勉強しているとのことなので、現場を見ることでさらに理解が出来たのではないのでしょうか。現場監督から図面をもとに工事内容の説明を受け、実際に柱、梁の躯体に触れることで、現場を味わうことが出来たと思います。

二日目は、豊橋市内にある竣工間近の『葬祭センター』の現場に行き、外構工事のアスファルト舗装、設備業者の機器調整作業、竣工清掃、検査など慌ただしく行われている所を見てもらいました。ここでは多くの方が協力し合って、工事が完成することが理解してもらえたと思います。午後からは、豊根村の保育園改修工事の現場へ行きました。前日と同じように現場監督から説明を受け、床暖房を取り付けるための木床下地の組み方、床暖房のシステム、また、改修したばかりの屋根の上も歩いて、防水工事の新しい工法も見てもらいました。ちょっと現場が遠かったので疲れたようでした。

建設業の特性として、工事が完了すれば、別の土地で異なる工事を行います。遠くの現場に毎日通勤したり、時には泊まり掛けで現場を担当することもあります。大変な反面、常に新鮮な気持ちで仕事に取り組めるところが魅力でもあります。何よりも自分が『創ったんだ』という充実感は何物にも代えられません。

たった二日間の体験ですが、今後のお二人の発展につなげることが出来たならば幸いです。

千賀 信幸



インターンシップ

建築科 2年 神谷 涼

8月3日と4日の2日間、青山建設でインターンシップをさせていただきました。そこでいろいろなことを学びました。どうやって建設物ができていくのか、実際に現場に行つての学習、学校では学ぶことのできない貴重な体験をたくさんさせていただきました。今では少ない東石で建てられた保育園など、珍しいものも見ることができて、とても良かったです。現場では、作業服、安全靴、ヘルメットが基本で夏のどんな暑い日でも着ているので、夏場はとても厳しい仕事なんだなと思いました。車で二時間かかる現場などもあり、毎日そこに行つて帰つてを繰り返している人もいて大変だなと思いました。このインターンシップを通して、他では経験できない、将来に生かせるようなことをいろいろ教えていただきました。インターンシップで学んだことを学校や将来に生かしていける、これからもっと勉強して一流の職人になれるように頑張りたいと思いました。2日間本当にありがとうございました。



インターンシップ

建築科 2年 中島 健一郎

8月3日、4日、青山建設でインターンシップをやらせてもらうことになりました。その当日まで現場に行くということは聞かされていましたがどんなことをするのか不安と緊張でいっぱいでしたが、挨拶で感じのいい方だと分かってホッとしました。

1日目は、午前中、基礎の造り方を写真と資料と一緒に見させていただきました。何日から何日まで基礎の型枠の部分を作るとか、この事業をするにはこの規制法に関わるとか作業の実施の期間などが書かれた特定建設作業実施届出書というものを提出しなければならないことなどを教えてもらいました。

午後は現場に連れて行ってもらいました。その家は木造でした。そこでは、骨組みができて、筋交いを柱と柱の間に入れているところで図面を見ながら丁寧に教えていただきました。土台の木が途中で切れていて、そのことを質問した時も分かりやすく教えていただきました。

次の日は、どんな所へ連れて行ってくれるのか楽しみになりました。

2日目は、最初、完成間近な現場に行きました。そこには、庭を造っている人や駐車場を整備している人など多くの方がいました。

2つ目の現場は、保育園の改修工事でした。そこでは現場監督さんが一つ一つ回って、床暖房をどうやって取り付けるのか、とか、どこの床を張り替えるのか、屋根をどうつけるのかなど丁寧に教えてもらいました。

この2日間で、建築物を1つ造るのに思っていた以上の人が関わっていてびっくりしました。これからも建築に関わっていくと思うけど、人とのつながりを大切にしていきたいです。2日間どうもありがとうございました。



将来なりたい職業

うれしいことがあった。将来なりたい職業を聞いたときに、4人のうち2人が、「土木関係」と答えてくれた。農業工学科の生徒なのだから、土木会社に現場実習に来ているのだから、当たり前じゃないと言われるかもしれないが、この数年、実習に来た生徒の答えは、「まだ分からない」か「製造業」であった。

昨年まで、愛知県はまさしくものづくり大国であった。自動車産業を始めとする製造業は軒並み過去最高益を記録し、若者にとっては、将来性からも待遇面からも、さぞ魅力的な職場に映ったことだろう。一方、地方の建設業者はと言えば、公共事業の縮減による厳しい経営状況の中、旧態依然としたイメージが拭い切れずに、若者からは敬遠された。まるでバブル期に3Kと忌み嫌われたことを思い起こさせるように、建設産業の今後の人材確保には暗雲が立ち込めていた。

そんな先行きを懸念していたところ、先の生徒たちの発言である。今年は幸いなことに、夏場にも関わらず例年よりも現場の数があった。建設産業のオモシロさを伝える絶好のチャンスとばかりに張り切ったのだが、あいにくの天候。予定していたことの半分もなしえず、物足らなさの残る実習となってしまったのではないかと案じている。

金子君、河田君、福田君、古瀬君、もしまだ知りたいこと、聞きたいこと、見たいこと、体験したいことがあったら、いつでも来て欲しい。我々は、もっと建設産業のやりがいを伝えたいし、魅力を感じてもらいたいと思っている。そしてまた、土木の道を志す若者の期待に応えるべく、まだ進路を迷っている若者の選択肢の一つとなるべく、時代に即しながら日々「カイゼン」していかなければならないと思っている。

そして、君たちが、将来、建設現場で活躍してくれることを切に願っている。



現場実習を終えて～土木体験を終えて～

農業工学科 2年 金子 拓人

僕は今まで、田村組が何をしている会社なのか、場所はどこのかなど、何も知りませんでした。いざ行ってみると、事務所は綺麗で大きいなと思ったのが第一印象でした。1日目は、まず自己紹介から始まりました。名前だけでなくパン屋で売っているものを紙に書くなど、ゲーム感覚で楽しかったです。またその時に、田村組は市内を中心に様々な事に取り組んでいるということを知りました。とても良い会社だと思いました。その後、雨だったので実習ではなく作業現場の見学でした。一番興味を持ったのは、新しいバイパスの工事現場でした。中学校の時から工事をしていたので、ずっと気になっていました。今回、どんな感じでできるのか分かったので良かったです。また、完成が近いそうなので楽しみです。午後は、その新しいバイパスで、水準測量をしました。時間の都合で途中でした。次の日は、朝からバイパスで前日の続きをやりました。学校でもやったけど、忘れていた事もたくさんあり、担当の方に教わりながら進めました。そして結果は誤差1mmで大変よい結果でした。嬉しかったです。2ヶ所目は近くの道路で、同じようにやりました。しかし、大幅に誤差が出てしまい、どこかで目盛りを読み違えたと思います。ここが反省点です。午後は、総合公園で距離測量を行いました。これはミスなく正確にできました。



最後に、土木の体験をして思ったことは、けっこう大変だけど、楽しい仕事ばかりだと思いました。個人的に、土木関係に就職するのもいいなと思いました。この現場実習は進路を決める上で、大変有意義な時間でした。

現場実習を終えて

農業工学科 2年 河田 颯也

現場実習の1日目は専務の自己紹介と建設業界の売っている物から入りました。身近に売っている物ではないのでとても勉強になりました。雨が降っていたので田村組の建造物の見学になりました。話によるとバブルの頃に建造した物に模様までいれるだけ好景気で現在の3倍ほどの売り上げがあったそうです。模様のある実物のダムを見たけど1枚1枚模様が彫られているし、通れない所に階段があって、なにか無駄なような感じがした。午後になって雨がやんで、高速道路の高低差を測りました。久しぶりに遣ることなので最初は、少し手間取りましたが、後はスムーズに進んだのでよかったです。2日目は昨日行った測定の続きを問題もなく完了しました。次に測量結果を出したところ、計算方法を間違えてしまい、計算をやり直しましたが、誤差がでてしまいました。どこかの測点で読み間違いをしたようでした。次の道路の高低測量では、坂道の測定だったけど距離が短く同じ測量方法なのでしっかり値を読むことができました。次は、総合公園の階段を巻尺で距離を測りました。その後、会社に戻り、ダム建設についてのビデオを見ました。安全面にとっても厳しい現場監督と監督について行く人たちが命をかけてダム建設に望む姿勢には感動しました。



現場実習を通して実際に一般道の水準測量、建設業界の厳しさや仕事の内容を知ることができ、とても良かったと思います。

高校生現場実習について

今年も高校生の現場実習が7月29日、30日の2日間行われ、新城高校より黒田君、山口君、小野田君、戸田君の4名の生徒さんに実習に参加していただきました。

初日は雨天となりましたが、最初に会社の概要、実習内容、安全に関する注意事項等のセミナーを行い、会社玄関にて記念撮影を行いました。その後、黒田君は設楽町の舗装工事現場での実習、後の3名は、倉庫内の清掃、H鋼の錆止め塗装等を行いました。午後は、4人で工事関係のビデオを鑑賞しました。

2日目は、待望の晴天となり、舗装工事現場、治山工事現場、道路維持補修工事現場に分かれ、舗装工事現場では、舗設作業の見学、手伝い等、治山工事現場では、測量、丁張り設置作業の手伝い等、道路維持補修工事現場では集草作業等を実習していただきました。

今年は梅雨が長引き、初日は雨のため予定していた現場実習が出来ず、生徒の皆さんにはご迷惑をおかけしましたが、2日目の実習では暑さのなか真剣に実習して下さいました。この現場実習の体験が高校生の皆さんの今後の生活において、少しでも役に立てたら幸いです。



現場実習を終えて

農業工学科 2年 黒田 裕仁

初日は、雨で作業が予定と違うものに変更して、先ず、木材に付いている釘を抜きました。釘が抜けず、かなり汗が出るほど力を込めて行いました。次は、鉄筋に赤いペンキを塗りました。むらなく塗るのは大変だったけど、意外に面白く楽しくやることがき、作業もはかどりました。その後、ビデオを見ました。災害を防ぐために必要なことがいろいろ映されていました。他に、道路舗装の方法と機材の紹介をしたビデオを見ました。



2日目は、昨日とは打って変わって快晴でかなり暑かった。みんな別々の現場に行った。僕は、道路の舗装現場に行きました。初めてやる作業なのでかなり緊張したけれど一緒に作業する人たちが優しく接してくれたので、気楽に作業することができました。道路舗装は先ず、車が来ないように工事中の看板を置くことから始まり、崩れた道路を四角に掘ってそこにアスファルトを詰めて、機械で固めていきます。僕は、看板を置いたり、掘ったアスファルトをトラックに積んだり、周りをほうきではいたりしました。思っていた以上に肉体労働で、汗だくになりながらやりました。自分がいつも通っている道路が、どのように直されているか知ることができて良かった。

自分が将来どのような職業に就くかは分からないけれど、そのためにいろいろな体験を積むことは大切だと思うので、現場実習にこれたことは、とても良かったです。

現場実習を終えて

農業工学科 2年 山口 達也

1日目の実習内容は、僕は作手まで行って道路舗装工事を見学する予定でしたが雨のため作業は中止になってしまいました。代わりに、会社の倉庫にある木材の片付けをしたり、鉄筋のサビないようにするためにペンキを塗ったりしました。途中で雨がやんだので桜淵にある現場を見学しました。2日目は天候に恵まれ無事に現場実習を終えることができました。一人一人に担当職員が付いてくれて、別々の現場に行きました。僕は、千郷の現場で歩道の舗装工事を見学しました。現場に移動するとすぐに沢山の機械があり、かなり興奮しました。そして、工事が始まり、アスファルトを道路に敷き詰め始めました。近づいてみると、尋常じゃない程熱く数十m先の景色がゆがんで見えました。「めちゃくちゃ熱いですね」と尋ねると「そりゃ150 位あるからねこのアスファルト」と言われ、すごく驚きました。その後3時間程で工事は終了しました。午後からは、草刈りをしました。雨が降った後で相当ジメジメしていて蒸し暑く、午前の舗装工事よりも辛かったです。でも現場の職員の方が気を遣ってくれて、休憩を沢山取ってくれたので倒れることなく、最後までやり遂げることができました。



権田組の皆さんには、大変お世話になりました。この経験を元に進路を考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

現場実習生を受け入れて

7月29日、30日の2日間、新城高等学校2年生の4名に緊急防災対策河川工事と道路改良工事の現場で実習をしていただきました。

初日は会社朝礼にて自己紹介をしていただき、その後新規入場者教育を受講後、現場での実習へと移りました。まずは、工事現場内を案内し、工事内容の説明と実習していただく作業内容の説明をしましたが、初めての工事現場の体験とあって興味津々で真剣に説明を聞いていただきました。

初日はあいにくの雨で現場が稼働できなかったため、体力勝負の土のう作りを体験していただきましたが、土のうの使用目的や縛り方だけでも彼らにとっては新鮮に映ったようです。その後は測量を体験していただき、レベルを使い構造物の測定や高さの計算をしましたが、授業では習っているものの実際の現場での測量には戸惑いもあったようで、私達のプロの仕事には驚いているようでした。また地域貢献活動を体験してもらうために、工事現場周辺のごみ拾いも行いました。2日目は天候もよく実際の現場での作業を体験していただくことができました。

実習を通じて若い人の新鮮さと元気に触れ、自分が入社した頃を思い出しつつ、少しは成長した実感も味わいました。また、災害時の復旧作業や地域を守り地域貢献するためにもこうした元気で真面目な若い人達がどんどん建設業に入ってこれればと思いました。まだ進路を決めていない人もいましたが、この貴重な体験を通じ、少しでも建設業に興味を湧いてくれればと願いつつ、短い2日間で建設業の魅力は十分伝えきれなかったと思いますが、残りの高校生活の過ごし方や将来設計に役立ててくれれば幸いです。

建設部 土木課 丸山 広樹



現場実習を終えて ～現場の大変さと、達成感～

農業工学科 2年 浅井 正人

僕は、田町川の現場でお世話になりました。工事内容は緊急防災対策河川工事でした。初日は、あいにくの天候で雨でした。雨が降ってしまうと現場では何もすることがないそうで、事業所の方に工事内容など説明をしていただきました。実際に工事をしたところに連れてってもらい、どういう効果があるのかなど説明を受けました。その後、雨がやみ、距離測量を行いました。これは学校の授業で経験済みなので、スムーズに作業ができました。



次は土のうを作りました。これは初めてなので少し緊張しました。土のうに土を詰める作業が、とても力を使う作業で大変でした。それを、30個作って並べました。とてもキツイ作業だと思いましたが、住民の方が「えらいねえ～」と言ってくれたりして、とても達成感のある作業だったと感じました。次の日は天気が良かったので水準測量を行いました。道路の測量を任せられたので、不安でしたが職員の方が付いて教えてくれたのでできました。計算の仕方とても分かりやすかったので、すごく為になりました。その後は、地域貢献活動として、清掃や川の草刈りなどをしました。事業所の方は、工事という大変な作業もあるのに、ボランティア活動の一環として、清掃など、河川のゴミ拾い、草刈りなどを行っているなんて凄いいし、とても大変な仕事なんだと思いました。現場実習を通して学ぶことができました。この現場実習は自分にとってプラスになるものだったと思います。親切にご指導していただき感謝いたします。

現場実習を終えて ～初めて見る世界～

農業工学科 2年 浅野 勝雅

夏休みを満喫していた僕にとってこの現場実習は、すべてが初めてのことだったので、とても不安でした。そしてさらに僕の不安を高めたことは、雨でした。しかし、雨の中、凄く親切に仕事を教えてくれて、ずっと不安だった気持ちがなくなりました。そして、今なぜこの仕事をしているか、なぜその工事が必要なのか、など工事のことについていろいろ説明を受けました。その説明のおかげで今までなにも知らなかったことや、知ろうともしなかったことに少し興味がわいてきました。その説明の後、少し雨が上がったので測量を行いました。その後、土のうを作り1日目は終わりましたが、雨が降っていて外の作業はあまりできませんでしたが、いろいろと知らないことなどが聞けてとても勉強になりました。次の日は晴れたので外でいろいろ仕事をすることができました。まず、水準測量を行いました。学校で学んだことが役に立ち少しは、現場の役に立ったかなと思いました。さらに、草刈りなど貢献活動を行いました。



今回の現場実習では、いろいろなことを学びましたが、自分があまり役に立っていなかったことが1つ心残りです。でも、学校でやったことが少し役に立ったのは、少し嬉しかったです。

高校生の現場実習

7月29日、30日の2日間で新城高校土木コース二年生の3名の学生による現場実習を行いました。今年は雨が多く現場の体験は悪天候の内に終わってしまいました。1日は建設業とはどんなものか分かってもらうために工事の受注から引渡しまでの流れを説明し、現場監督は常にどんな仕事をしているかを説明しました。その後、「民衆のために生きた土木技術者たち」を鑑賞し、日本の技術者がパナマ運河の建設に参加し、技術力を発揮したことから日本の技術者は優れていることを理解してくれたと思います。また、道路工事の図面の見方を簡単に説明し、2日目に道路工事に必要な基本的な測量実習を行いました。カーブ設置の測量では、どのようにすれば道路にカーブがつくれるか実際に体験してもらいました。測量機械がいつも使用している物より高性能なのに驚いた様子で興味を持ち、真剣に取り組んでいました。現場見学では現在行われている急傾斜地崩壊対策工事の現場を見学し、この工事がなぜ必要なのかを説明しました。

最近、公共工事の無駄が報じられる中、まだまだ田舎では公共工事が必要であることを理解してもらう事が出来れば幸いですと感じました。

工事部 石原 雅人



現場実習を終えて

農業工学科 2年 小河路 将平

現場実習の初日は雨でした。せっかくの現場実習が台無しだなと思いつつながら会社に向かいました。実習開始の15分前に到着しました。僕は、始まるまでずっと何をするかとても楽しみに思っていました。数分経つと庄田組の方が来て、実習中勉強する部屋に案内されました。最初は、自己紹介して注意事項を聞きました。まず、建設業のことを詳しく説明を受けた後、ビデオを見ました。午後は、車で工事現場まで行きました。現場では、作業が行われていました。雨が降っていたのでぬかるんでいてとても危険な状態でした。その後、いろいろな現場の見学を



しました。見学も終わり会社に帰り、新しいビデオを見ました。次の日は、天候がとても良く、まず、建設機械の運転について話とビデオを見ました。このビデオは、興味深く見ることができました。その後、機械の動かし方について指導があり、楽しくやることができました。最後は、水準測量をやりました。授業でやったはずなのに、すっかりやり方を忘れていました。やっているうちに思い出し、何とか時間内に終わることができました。

今回は、とても貴重な体験ができ、嬉しかったです。この経験を生かして、これからも頑張っていきたいと思えます。

現場実習を終えて

農業工学科 2年 柿原 好輝

始めに、会社の概要について説明をいただき、次に図面の見方などを教えていただきました。初めて聞くことが多かったので質問をしました。質問には、とても分かりやすく教えてくださいました。次に、ビデオを見ました。民衆のために生きた土木技術者たちをみて、とても凄いことをしたなと思った。外国にまで行った人もいたので人生をそれにかける人もいてびっくりしました。午後からの工事現場の見学は、雨だったため少し大変だった。工事現場の他にも、完成した現場の見学と説明を受けました。雨が降っていたがいろいろと教えていただき無事終了しました。次の日は、天気も良く、建設機械の操作について学習しました。操作は単純だったが力の入れ方が難しかった。次は、水準測量でした。学校でやっていたことなので、簡単だと思っていたけれど器具が少し違い難しかった。最後に行った実習は、曲線設置を行った。学校ではまだやっていないし、使ったことのない器械もあり難しそうだった。始めは、ぎくしゃくしていたけど、慣れるにつれてできるようになってきた、最後には、上手く合わせて終了することができて良かったと思った。



現場実習をやったことは、学校で学習していないことを沢山教えてくれたのでとても良い勉強になった。学校で学んだこともあったので、今後は、授業をしっかり受けて、いろいろなことを学びたいと思いました。

新城高校生の現場実習を終えて

平成21年7月29日、30日の2日間4名の現場実習生の受け入れを行いました。

1日目は、雨天のため、午前中は、会社事業内容の説明、今後の建設業将来展望、そして実習生達が建設関係の仕事に就いて、実際に働くとしたらどんな資格取得をして、会社勤めをするのかと言う説明をしました。次に現場の測量実習を事務所内で測量機器を使い体験もしていただきました。

午後からは、治山の谷止工現場、橋台を作っている道路改良工事、急傾斜の現場等を見学して、最後に、橋台の現場工事写真、書類を担当者から説明を受けて1日目を終了しました。

2日目は天候も回復し、道路の草刈を体験し、このきびしい暑さの中で、労働体験をしていただき2日目の実習を終えました。

この2日間の現場実習により、生徒さん達が少しでも建設関係の仕事に興味を持っていただき、昨今の建設業イメージを打破して行くことをわれわれの年代から情報発信をして行くことが、大切だと思いました。今後も若い世代とのこうした体験実習を通して、私達も勉強して行きたいものです。

村雲 伸一



現場実習を終えて ～この現場実習で～

農業工学科 2年 小野田 敦優

現場実習は、初日、雨だったので会社がどのような仕事をしているかなどを教えてくださいました。今まで会社は知っていましたが何をやっているかなど余り知らなかったのととてもためになりました。建設業は、ただ道路などを直すだけでなく、田んぼを直したり、治山工事などを行っていることを初めて知りました。建設業はとても大変だと思いました。

午後から実際に現場を見せてもらいました。現場は、車で工事現場まで連れて行ってもらいました。やっぱり現場は凄いなと思いました。治山工事の工事中的のものや完成したものなどを見て回りました。工事



途中のものもやがて完成すると思うと、やっぱりその仕事を担当している人達は、とても凄いと思いました。完成まで無事故で頑張してほしいと思いました。次の日は、現場で作業をしました。現場は、自分の家の方向の海老まで行って草刈(除草)の仕事をしました。除草は思った以上にとても大変なものでした。刈ってくれた草や枝を集める作業でしたが、これが以外と重労働でとても大変でした。1日やっていたのでは本当に大変でした。でも、除草し終えた海老の町を見るととても綺麗になっていたの、良いことをやらせてもらったなと思いました。

この体験では、いろんなものを知ったり、見たり体験できたのととても良い現場実習になりました。

現場実習を終えて ～貴重な体験～

農業工学科 2年 原田 陽一郎

僕はこの体験で、いろんなことを学びました。初日は、雨で実習はできなかつたけれど、会社の主な仕事や内容について詳しく教えてもらいました。また、測量器具の説明と操作の仕方を教えてもらいました。この器具はとても高価で便利な器械でした。その器械を少しだけ使わせていただきました。とても貴重な体験でした。午後は、トラックで建設現場の見学に戻ってくれました。現場は、山崩れを防止するための工事を行っている現場や、家の近くの橋の工事の現場を普段は入れない所まで見せてくれました。これも貴重な体験で、とても大変そうな現場



でした。現場を見終わった後、橋建設の責任者の方に橋の建設に係る貴重な書類を見せてもらいました。僕が見ても、何が書いてあるのかわかりませんが、これがないと橋ができないんだなと思いました。次の日は、草刈りを手伝いました。道路端の雑草を刈りました。その日は前日と違い、とても暑く大変な1日でした。くま手を使って、刈った草を集めるのが僕たちの仕事で、思った以上に大変でした。しかし、この作業があるから、いつも使っている道路が草だらけにならずにすんでいるなと実感しました。

実習を終えてとても大変だったけど、普段使う道路などが、このような作業によって守られているなと思いました。